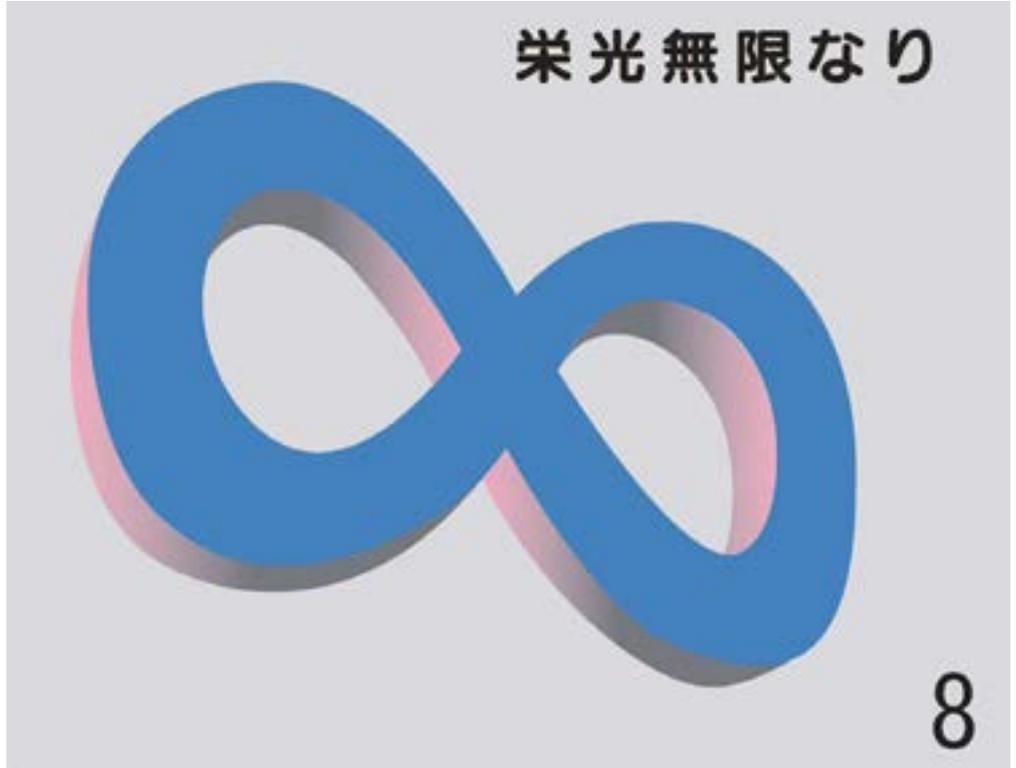


久留米大学附設高等学校同窓会 会報



久留米大学附設高等学校同窓会事務局
〒839-0862 久留米市野中町20-2
TEL 0942-44-2222
FAX 0942-44-8257
◎卒業生数 13,292名

同窓会ホームページ <http://fusetsu-dosokai.com/> 順次更新していますので是非ご覧ください。



附設のシンボル『思考廻廊』 8回生のパネル／栄光無限なり

目次

■ 役員プロフィール	2
■ 挨拶	第8代会長 吉田清隆	3
■ 挨拶	学校法人久留米大学 理事長 永田見生	4
■ 挨拶	学校法人久留米大学学長 内村直尚	5
■ 挨拶	久留米大学附設中学校・高等学校校長 町田 健	6
■ 挨拶	後援会会長 井本浩樹	7
■ 支部だより	全国7支部の活動	8
■ 海外だより	徳永博基・金地泰典・大倉 豊	18
■ 古稀を迎えて	宮本博幸	21
■ 還暦の会	古川幸稔	22
■ 高良随想	河村直樹・小林要慈	24
■ トピックス	則尾弘文・野田英一郎・的場哲哉	26
■ 会務報告	29
■ 卒業生への支援	37
■ 在校生への支援	進路講座	38
■ 大学だより	原田祥平・今村啓明・廣田 将	49
■ 母校のいま	附設合格状況	52
■ HPご利用手引き	59
■ 母校の新型コロナ対応に向けた寄付のお願い	60
■ 寄付・広告	61
■ 編集後記	同窓会室の紹介	134

附設同窓会報

役員プロフィール

よし だ きよ たか

吉田 清隆



回 生 | 23回生 (今年65才！)

役職・担当 | 同窓会会長

近 況 | 外航海運企業の子会社特別顧問。
坂東太郎の氾濫原、真っ平な埼玉県久喜市に在住。趣味は家庭菜園と折り紙。

在校時の思い出 | 入学後まもない現国（世良忠彦先生：故人）の授業で、具象だ抽象だ捨象だと聞いたことのない単語を問われたこと。
食堂の肉うどんと高校4年生（補習科）の充実した日々。

すな ば やす ひろ

砂場 泰浩



回 生 | 21回生

役職・担当 | 同窓会副会長 広報

近 況 | 行政書士

在校時の思い出 | 同期が憩いの森にベンチを作ったこと。
運動会が3日あり、その中に20人リレーがあったこと。
数学の佐々木健治先生がクラシックパレーをやっていたこと。

こ が よし ひこ

古賀 善彦



回 生 | 23回生

役職・担当 | 同窓会副会長 総務
吉田清隆同窓会会長を、同期の副会長として支えているつもりです。

近 況 | 福岡的那珂川病院に勤めています。
コロナ患者の対応を担うことがあります。

在校時の思い出 | 今もそうですが、ぼーっとしていました。夏休みの補習も学校に行って図書館で寝て帰っていました。附設の天才たちに刺激されて今の私があります。感謝感謝です。

た なか えい じ

田中 英治



回 生 | 23回生
(中学1回生・町田校長との付合いは50年超えました。)

役職・担当 | 同窓会副会長 主に経理担当

近 況 | 有限会社ウインズ 代表取締役
(筑紫野市のゴルフ練習場)

在校時の思い出 | 中学・高校・補習科と3カテゴリーを経験した最初の世代！

しま ぞえ たか お

島添 隆雄



回 生 | 25回生

役職・担当 | 同窓会副会長 思考廻廊

近 況 | 九州大学大学院薬学研究院准教授。
剣道部OB。テニスをしたり、軟式野球をしたりとスポーツ三昧でしたが、もう長いこと運動不足で、体力が著しく低下しました。
現在、食育にも取り組んでいます。

在校時の思い出 | 当時は高校に運動部がなかったので、中学で頑張った剣道を久留米の道場に通って続けていました。しかし成績が大幅に下がり、牟田先生に剣道禁止を言い渡されたのが苦い思い出です。また、高2の時に久留米大学病院で心臓手術をしたのもいい経験になっています。

なか むら かず のり

中村 和徳



回 生 | 27回生

役職・担当 | 同窓会副会長
(IT情報・名簿委員会委員長)
なんだかんだ同窓会活動も10年近くやっております。副会長としては、4人目の会長となる吉田会長をサポートさせていただいております。

近 況 | 金融機関、小売業を経て、現在は、ITベンチャーCFOやっています。75周年に向けて頑張ります。

趣 味 | ゴルフ、おやしきキャンプ

在校時の思い出 | 中学では、剣道部主将、高校では生徒会長やっております。

かつ れん おさむ

勝 連 治



回 生 | 33回生

役職・担当 | 同窓会副会長
広告募集制度委員会委員長

経 歴 | 新卒で入社した会社には中村副会長がいらっしゃいました。現在は砂場副会長と同業です。

近 況 | 今年になって15kgのダイエットに成功しました。半年以内をメドに、当時勤めていた会社の独身寮を追い出されて以来21年以上住んでいる現在の住居から引っ越し事を検討しています。

在校時の思い出 | 現在の中高で必修教科の「芸術選択」ではないゲーセンにのめり込み、沖縄からの寮・下宿生活は7年に及びました。



同窓会会長 挨拶

FULL AHEAD! 為他の気概をもって全速前進

附設高校同窓会 第8代会長 吉田 清隆 (23回生)

同窓会の皆様、2年継続してのコロナとの共存生活お疲れ様です。そして何よりも医療関係に従事されている同窓生のご尽力には感謝申し上げます。

結局、コロナとの付き合いは昨年度のみでは終わらず、今年度も付き合っていくことになりました。昨年度の理事評議員会や定期総会は9月に時期をずらし、感染予防のため事前登録制としながらもリアル開催できたのが夢のようです。今年の理事評議員会および定期総会は、まともにコロナの影響を受け、オンライン(ZOOM)にて7月18日に両会議を開催させていただきました。ご出席いただけた方、いただけなかった方、共々にご不便をおかけいたしました。7月同日の福岡支部、9月の関西支部、10月の熊本支部と東京支部の総会もオンラインにて開催されました。執行部は月1回の定例会議を行っていますが、こちらも今年の3月からオンライン形式に切り替えました。楽しみだった会議後の懇親会もコロナに奪われてしまいました。

さて、母校もコロナ対策で大変苦労されています。令和2年度は、臨時通学バス運行、タブレット端末供給、食堂アクリル板設置などに多額の出費が必要とのことで、久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金からの支出を校長から要請され、同窓会として喜んで賛同しました。同基金は同窓会も運営委員となっており、同窓生、保護者、同窓会、後援会が主たる寄付者として母校の教育環境整備を目的として積み立てられています。そして、令和2年度の福岡・東京支部総会の幹事団(31回生・37回生)と協議し、コロナ禍により両支部総会懇親会を中止したことから、皆さまからの広告協賛金の大半を基金に寄付することにしました。また、同窓会一般会計予算の一部も基金に寄付することにしました。おかげさまで母校のコロナ対策出費に

よる基金財産の目減りをしっかり補うことができました。気持ちは、附設建学の精神である為他の気概でした。母校は令和3年度も追加のコロナ対策が必要となり、福岡と東京の支部総会幹事(32回生、38回生)とも協議し前年度同様の寄付を計画しております。

昨年の会長就任挨拶では、コロナの3密(=3C、Close, Crowded, Confined)に対抗してChart- Challenge - Changeの3Cをモットーに掲げたものの、コロナの脅威にはかなわず自らの成果はあがらぬまま過ぎ去りました。私事ですが、仕事でも昨年3月から在宅勤務中心となり、国内のみならず海外出張もできない中で今年の6月末で定年を迎え、もどかしさだけが残る1年でした。

今年は1年遅れての東京オリンピック・パラリンピックが開催され日本人アスリート大活躍でしたが、母校の後輩も国際物理オリンピックで金メダル、銀メダルを受賞するなど大活躍をしています(母校ホームページご参照)。次のオリンピックは3年後のパリ、翌2025年は大阪・関西万博ですが、同年に附設高校は75周年を迎えます。また2012年9月竣工の新校舎(大学80周年・高校60周年事業の一環)に合わせて落成した同窓会としての一大事業であった思考廻廊からまもなく10年を迎えるので、75周年までには以降の卒業生分や前回抜けた回生分の掲示を行う計画です。同窓会執行部内に委員会を設け75周年事業や思考廻廊の準備を進めて参りますので、同窓会の皆様にはご支援を賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、卒業生名簿(WEB名簿)への登録や終身会費納付へのご協力も宜しく願います(本紙別項および同窓会ホームページご参照)。



理事長 御挨拶

時務を識るは俊傑に在り

学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

2019年12月以降、中国湖北省武漢市を中心に発生した新型コロナウイルス感染症は短期間にパンデミック状態となり世界中を震撼させ、日常生活、経済に混乱を来し、2021年9月現在、いまだ終息していません。学校教育では、感染拡大を防止するために対面授業が制限される中で、自宅で行えるオンライン授業が全国的に広まり、大半を占め、学生、生徒の真の教育、学力向上が確保出来たか否かが課題です。そのような国民の心が憂鬱な中で、ワクチン接種を急ぎ、7月末から9月初頭までの期間に東京オリンピックとパラリンピックが開催され、日本選手の活躍に、日本人にやっとな笑顔が見られるようになりました。現在、9月末を提出期限とする本会報を執筆する中で、コロナ感染症の罹患者数が減少してきましたが、今後どのような推移を辿るかは不明瞭です。久留米大学では、2021年3月から病院従事者へのワクチン接種を開始し、大学生、附設生への接種を行い、感染拡大を防止し、大学関係者の感染や大学病院が収容している感染患者の数は減少しています。そして、コロナ感染症が終息すれば、バブル崩壊後のように、時代が大きく変わる状態が再び訪れるように思います。先哲は、「かかる時代の変換期に大切なことは、法律や組織の改善ではなく、変革を担う優れた人物の出現にあり、『時務を識るは俊傑に在り』という言葉があるように、時代の動きを明察し、英知、胆識を以って新しい事態に対処し得る人物の輩出にある」と記載しています。附設高校は、創立75周年をまもなく迎え、近年、医学、経済、

政治などの色々な分野で、まさに俊傑と呼ばれる人物を輩出しています。今こそ、建学の精神である「国家社会に貢献しようとする、為他（イタ）の気概をもった誠実・努力の人物を育成」する使命を全うする時があります。附設の生徒、同窓生は、自らがこの日本の一大変革期を乗り切る原動力となる気概を持って、善であるとともに賢である真の国民の指導者を目指して励んで頂くことを心から希望いたします。



学長 御挨拶

新しい時代への挑戦

学校法人久留米大学 学長 内村直尚

附設高校は昨年70周年を迎えることができました。これも同窓会会員の皆様の日頃よりの温かいご支援の賜と感謝いたしております。心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、皆さんが通常の日常生活を送れない状況にあり、さまざまな面で不安を抱えておられることだと思います。ワクチン接種が進み、また治療薬が開発されていますが、私たちの生活スタイルを変えることも大切です。感染防止のためには、密閉・密集・密接を避けること、手洗いやマスクを着けること、人と人の距離をとることなどが不可欠です。ソーシャルディスタンスとは身体的距離と精神的距離の両面から考える必要があります。以前のような家族や地域、職場などの人間関係が難しくなっていますが、視点を変えれば、家族関係や職場・地域社会などの新たな在り方を問い直し、再構築する機会ともいえます。また、自分自身のこころのケアとしては、規則正しい生活リズムを維持し、リラックスする時間を確保し、孤立しないように友人や家族とのつながりを保つことが大切です。懐かしい学生時代の友人と久しぶりに携帯やインターネットを通して思い出を語り合い、互いに励まし合うことはとても大切な孤立しないリラックス法です。

卒業生の皆さんは、学校生活では学業はもとより、様々な学校行事、学園祭や合唱コンクール、あるいは体育祭等に際して、自分達で一生懸命に企画、運営し、楽しかったこと、大変だったこと、等々、多くの思い出があり、その一つ一つが、学びの意欲と多くの友情の輪を育んだことと思います。そのことが、大学や社会人への一歩とつながるなど、貴重な成長の機会となったのではないのでしょうか。このような時代であればこそ、同窓会のつながりや交流の場が不可欠です。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で先が読めない状況ですが、人に寄り添い共感を育むことで人間

力を高めることができます。今をピンチと思わず、人として成長できるチャンスに変えてください。

今、日本そして世界に目を向けると、日々、コロナを含め様々な課題が生じ、人間社会が協力しあい、知恵と力を結集して取り組むべき新しい時代を迎えています。皆さんには、人とのつながりを大事にして全力で立ち向かうという附設の伝統の下、様々な課題に果敢に挑戦していただきたいと思います。

今後も久留米大学学長として久留米大学、附設高校および附設高校同窓会の発展に少しでも寄与できるよう励んで参ります。至らない点も多々あろうかと存じますが、同窓会会長を始め同窓会役員の皆様、会員の皆様には引き続きご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げご挨拶と致します。



校長 御挨拶

疫病下の附設

久留米大学附設中学校・高等学校校長
(高校23回生・中学1回生) 町田 健

昨年初頭に始まった新型コロナウイルスの我が国での蔓延は、未だにその収束を見ておりませんが、附設高校同窓生の皆さまにはご健勝にお過ごしのことと存じます。

昨年は政府の要請により3月から5月まで3か月の休校を余儀なくされ、6月に開校し新学期を迎えてからは、8月半ばに2週間ほどの夏期休暇を設けた以外は、遅滞なく授業を継続させました。開校後は、感染予防のための薬剤や備品の購入の他、中学と高校の時差登下校を実施するための臨時バスの手配、再びの感染拡大にも対応するための情報機器の生徒への配布のために、相当額の支出が必要となりましたが、同窓会及び後援会からのご寄付による教育振興基金が充実しておりましたおかげで、これらの支出には迅速に対応することができました。緊急時に必要となる費用は、平常時の予算には十分には組み込まれておらず、支出が必ずしも認可されるとは限らないため、附設専用で設けられている教育振興基金は、今般のような非常事態の際には大きな力を発揮し、本校の高度な教育を確実に実行することを可能にすることが改めて認識できました。同窓生の皆さまの今後とものご支援を切にお願いする次第です。

開校後の生徒・教職員ともどもの努力により、授業や行事等を着実に実行することができ、その結果、昨年度の東大合格者は36名、国公立大医学部医学科合格者は95名など、困難な状況にも関わらず、例年にも増して優れた合格実績を残すことができました。1月末に実施した入学試験にも多数の受験者が応募し、高校よりの入学者は男女が同数となり、男女共学がさらに実質化しつつあることを実感しています。

今年度は4月に入学式・始業式を迎え、4月末には高校の文化祭も予定通りに実施することができました。その後再び感染が拡大し、一時期は幾分落ち着いたものの、8月初頭よりは爆発的な感染拡大が起り、2学期の開始時も、緊急事態宣言が発出されたままでした。このため、再び中学高校の時差登下校を行

う他、各教室に空気清浄機や二酸化炭素濃度測定器を、女子更衣室には紫外線照射機を設置するなどの感染対策を実行する必要が生じましたが、今回も同窓会・後援会よりのご寄付により無事に対策を実施することができております。今後の予測は困難ですが、疫病が無事に収束し、附設の学校教育が平穩に遂行されることを祈っております。

古代ギリシアの悲劇作家アイスキュロスの作品『アガメムノン』の中に次のような文句があります。

Υγείας νόσος γαρ γείτων όμότοιχος.

健康というのは、病気と壁一枚隔たっているだけなのだから。

2025年に、附設高校は創立75周年を迎えます。同窓生の皆さんが現今の稀なる困難を乗り越え、母校にとって記念すべき日を共に祝うことができるのを心より願っております。



令和3年7月30日、国際物理オリンピックで金賞を受賞した高校3年生楠元康生君、同系永泰樹君を激励に在福岡アメリカ合衆国首席領事ジョン・C・テイラー氏が本校を訪れました。



後援会長 御挨拶

母校の近況について

後援会会長 井本浩樹 (高校33回生・中学11回生)

昨年に続き、後援会会長を務めさせていただいております井本です。附設中高を卒業後、防衛医大へ進学し、現在は地元で整形外科医をしています。中高時代は朝から晩まで軟式テニスに明け暮れていましたが、現在は時間を見つけては自己流ゴルフに打ち込んでいます。

2021年9月現在も、新型コロナウイルス感染症第5波の拡がる福岡県に緊急事態宣言が適用され、相変わらずコロナ自粛生活が続いておりますが、附設中高等学校においても、コロナに翻弄された2年目の学校生活を迎えました。昨年は約3ヶ月の休校後に学校が開始となり、春の文化祭は中止となりました。秋の体育祭は無観客で開催されましたが、冬の北海道のスキー修学旅行は中止となりました。保護者の地区懇親会・学年懇親会や、卒業生の謝恩会も次々と中止になりました。卒業生や保護者様には、節目の年に多くの行事や懇親の機会がなくなり非常に残念であったと思います。

残念続きの1年間でありましたが、一方で昨年の進学実績は過去最高の晴れがましい結果となりました。東大理科Ⅲ類に現役3名合格をはじめ国公立医学部現役合格者数は全国1位となりました。生徒さん達が非常に優秀であったことはもちろんですが、コロナ禍で春の休校のため授業の進捗が遅れる中、私立の中高一貫校ならではの先取りのメリットを大いにいかせたお陰と思います。

今春、附設最大のイベントである文化祭は、共学の今も「男く祭」として無事開催する事が出来ました。初日の学校祭は、高校生の保護者2名まで参観可、2

日目のシティプラザの公演は無観客開催でした。

学校祭ではダンスステージ、漫才ウケメン、附設小町、書道パフォ、楽器演奏、出店などがあり、多くの人々で賑わいをみせていました。昼過ぎには来場者もピークとなり、中央ステージのフィナーレでは、昨年中止となった先輩方の想いも引き継ぎ、感無量で挨拶をする生徒会役員さんらの姿が印象的でした。第2日目のシティプラザでの公演は、後日ビデオで見ることしかできませんでしたが、コーラスは男女混成合唱で男子校時代にはなかった華やかな歌声でした。太鼓パフォでは、お揃いの法被を纏い糸乱れず力強く演奏する姿に感動しました。演舞パフォでは、色鮮やかな照明の舞台でモノトーンの衣装を着て渋カッコいいダンスを披露していました。どの演目も青春を謳歌している、若く力強い附設パワーを感じました。

今年の行事も昨年同様中止や延期もでてきておりますが、できる限りたくさんの経験と思い出作りができるように、またコロナ治療薬の出現で来年こそは平常運転ができることを祈るばかりです。

最後になりますが、附設中高等学校には今後改築・新築すべき建物等がまだまだ残っております。学内のコロナ対策費用も不足しております。ぜひ皆様のご好意を教育振興基金へお寄せいただければ、在校生そしてこれから入学してくる未来の附設生に、より素晴らしい環境を与える事が出来ると思います。皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

校歌

久留米大学 附設中学校
附設高等学校 校歌

大石亀次郎 作詞
藪 文人 作曲

一、高良山下の学園に

万朶の桜咲きそろい
若き血潮の高鳴るを
見ずや 希望の揺籃地

二、江月冴えて 悠久の

流れは遠し 千歳川
高き彼岸の光明を
見ずや 試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく

平和の偉業 任として
築く不朽の真善美
見ずや 我等の大使命

全国各地で活発な同窓会活動が繰り広げられています。

この『支部だより』コーナーでは、
各支部の活発な活動報告をお届けします。

● 福岡支部 ●

福岡支部活動報告
コロナ禍での総会開催

福岡支部長 実藤 光二郎 (26回生)

福岡支部の運営は、回生代表世話人会を年2回開催し、各回生及び職域の代表世話人に参集頂き、支部総会をはじめとした活動・取組の各回生への伝達や総会出欠の取り纏め等をお願いしています。

また、県内で、有明・筑後・久留米・朝倉・筑豊・北九州の6つのOB会が運営されており、OB会が地域内同窓生の繋がりを深め、県内同窓生のネットワークを支えていただいています。

この回生世話人会とOB会の開催により、1年を通して支部総会に向けての機運を高めた上で、7月の支部総会を迎えるというのが、福岡支部の1年間の流れでした。

しかしながら、令和2年の春先より始まったコロナウィルス蔓延により、令和2年度の支部総会は中止に追い込まれ、以降は、各所のOB会の開催もままならずという状況が続いております。

昨年の同窓会報にも述べさせて頂きましたが、「オンライン開催というやり方も考えられましようが、集ってこそその総会・OB会であり、何とか工夫して開催の目途をつけたい。」と考え、この1年、坂田幹事長以下の32回生幹事団とともに、集合形式での開催を模索してまいりました。

結果、会場（西鉄ソラリアホテル）に来場して参加いただく方とZoomを使って参加いただく方のいわゆる「ハイブリッド」開催というプランを組み立て、昨年12月12日に回生世話人会を開催し、

- 飲食を伴う懇親会は行わず、総会・講演会のみ開催とする

- 会場定員を例年より大幅に少なくし、全席指定とする
- メールアドレスや携帯番号等の連絡先の事前登録をお願いする
- 非接触決済を行うべく、会場参加費は事前の振込制とする

等の万全の感染対策を講じた上で総会を開催したい旨を説明し、ご意見を頂戴しました。

当然、このような感染対策を講じるためには、事前の周到な準備が不可欠となりますが、準備が本格化する4月半ばより、いわゆる「コロナ第4波」に見舞われ、頼みとするワクチン接種も当初の想定より大幅に遅れている状況下では、幹事団による事前準備は極めて困難と判断せざるを得ず、4月17日の回生世話人会において、来場形式での総会を取りやめ、Zoomを使っての「完全リモート形式」のみで行なわざるを得ない旨をお伝えしました。

同期等と会場で語らうひと時を楽しみとされていた方々には、誠に申し訳ない結果となりましたが、7月18日にZoomを使っての「完全リモート形式」での総会を開催させて頂き、ひとつの区切りをつけさせて頂くことができました。

32回生幹事団の皆さんやコロナ禍でご参集頂きました回生世話人の皆さまには、従来以上にご負担をかけた次第ですが、「来年こそは」の意気込みで、枝國新幹事長以下33回生幹事団の皆さまと力を合わせ、臨んでまいりたいと考えております。引き続きのご支援をお願いいたします。

●福岡支部●

令和2年度 福岡支部 収支報告書

【収入の部】

(単位:円)

費目	決算額	備考
1. 前年度繰越金	3,506,531	
2. 広告等協賛金	500,000	
3. 回生代表世話人会会費	118,000	2019年12月14日(58名×2,000円、2名×1,000円)
4. 同窓会本部補助金	212,000	2019年12月14日回生代表世話人会補助
5. 預金利息	34	
計	4,336,565	

【支出の部】

(単位:円)

費目	決算額	備考
1. 事務費		
印刷・通信費	178,472	広告募集案内印刷・発送料
事務雑費	2,915	振込手数料
2. 事業費		
会議費	98,590	幹事会・OB会出務費を含む
広告費	5,000	同窓会誌への支部総会案内広告
OB会・支部総会へのお祝い金等	158,940	
回生代表世話人会	444,015	2019年12月14日 330,000円 2020年12月12日 114,010円
3. 翌年度繰越金	3,448,633	
計	4,336,565	

久留米大学附設高等学校同窓会福岡支部の令和2年度収支は上記の通りであり、その内容が妥当であることを確認しました。

令和3年2月28日

令和3年2月28日

31回生会計幹事

32回生会計幹事

橋詰 洋

新屋 潔

●北海道支部●

令和3年度久留米大学附設高等学校同窓会
北海道支部便り

北海道支部長 檀浦龍二郎 (20回生)

今年も昨年同様コロナ禍の年でした。外出制限が続
き、昨年に引き続き北海道支部同窓会が開けませ
んでした。支部会員の皆さんも不自由を強いられ
ています。札幌では5月の第4波、8月の第5波と
感染者が急増し、病床のひっ迫にともない、札幌
の患者を地方の空いてる病院へ搬送するという、
通常とは逆の現象が起きました。8月のオリンピ
ックマラソン、競歩の時は、沿道の応援者が見
られましたが、道外から来た方が多かったよう
です。2月から始まったワクチン接種も進んで
きており、来年こそは自由な往来ができ、同窓
会を再開できる事を願っています。会員の方よ
り近況報告がいくつか届いていますので、ご紹
介します。

草場鉄周さん(41回生)から

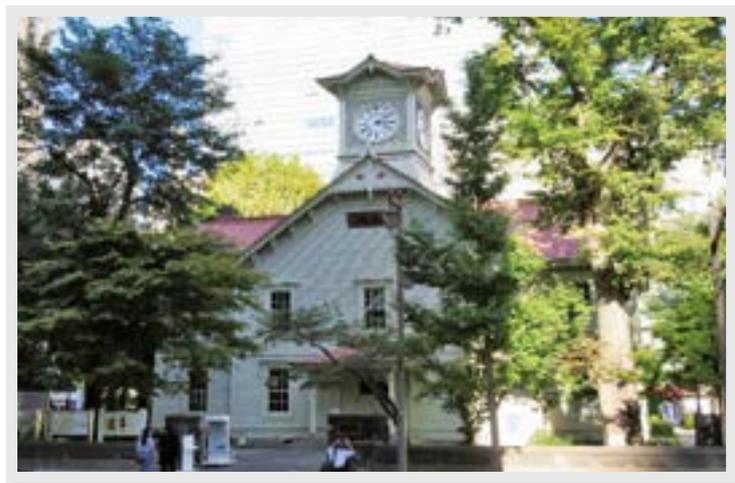
高校41回生の草場鉄周です。北海道札幌在住
です。コロナ禍も長くなる中、私の運営する医
療法人北海

道家庭医療学センターのクリニックではコロナ
疑い患者の発熱外来、コロナワクチン接種、自
宅療養する感染者への訪問診療やオンライン診
療を手がけており、緊張感あふれる状況でも医
師・看護師を中心にスタッフ一丸となって対応
しております。私自身も日本プライマリ・ケア
連合学会の理事長として2期目に入り、全国
のプライマリ・ケア診療に従事する皆さんに
役立つコロナ対応のガイドラインを作成する
など、学会としてどのように社会貢献するか
模索しております。

桜木修さん(43回生)から

引き続き外出を控えながらの日々ですが、
その中でも家族で楽しみを見つけて過
ごしています。早くコロナの状況も
落ち着き、九州の実家に帰省できる
日を楽しみにしています。

(文責 檀浦龍二郎 20回生)



● 関西支部 ●

関西支部活動報告

いただいた助言を基に
支部活動の活性化に努めて行く所存です!!

関西支部長 甲斐田 郁 夫 (21回生)

“今は昔”と言え、昔話風になりますが、此の稿を記すにつきその感を拭えませぬ。

当時の高橋友作同窓会長(19回生)から、「時流に合った処にしたね！（当時は高浜原発に絡む金品受領問題などが表面化したりしていました）」とお褒め(?) いただいた関電エルガーデン（関西電力本店4F、現在は休業中）での関西支部総会を、2019年11月29日に終えた直後から、世情は“コロナ禍一色”に変化しました。そう遠くない時期に収束するであろうと、あまい期待を抱き続けておりましたが、その後も事態は急変していき、あれよあれよと思う間に今日を迎えた感があります。

この間、郷里を遠くはなれ、大学にも行けぬ日々の多かったであろう、2020年度及び2021年度入学の新大生においては、心細い日々を送られたであろうと思います。関西においても戸外での同窓会活動をしづらい状態が続いた事は事実ですが、一番苦しい時に学生諸君の助けになる事ができず、支部長として慚愧の念に堪えませぬ。

一方、同窓会本部においては、昨年9月に簡素化に徹した定期総会を開催され、本年7月にはZoomによる定期総会を開催し、現状に合った活動への道筋を付けられて来ました。

私もこれに触発され、砂場泰浩副会長(21回生)にお願いし、メディア総研長野佐知子さんのご助力のもと、9月11日(土)6時～9時の時間帯をもって、初めてのZoom方式に依る関西支部総会を開催しました。

初めての企画であり、どうなることかと危惧しましたが、吉田清隆同窓会長(23回生)、町田健学校長(23回生)をはじめ高橋友作前会長(19回生)、砂場泰浩副会長(21回生)、中村和徳副会長(27回生)や東京から栗木康幸東京支部長(21回生)、熊本から柳文治さん(29回生)に参加いただいた他、学生参加の礎を築いた廣田駿介さん(61回生)、ロンドン留学中の吉田龍弥さん(64回生)等若手を合わせ、老若男女30名ほどでの盛会となりました。

会の中で、田中崇洋さん(47回生)みなとクリニッ

ク院長)にお願いし、Zoom会議のブレイクアウト機能により会を分け、同窓会長・学校長と若手、それ以外とに二分し、会を進行しました。

6時～9時の時間帯は長過ぎたと当初は思いましたが、9時の会議一旦終了以降も会に残られる同窓生もおられ、9時40分に全行程を終了しました。

Zoom会議の利点の一つは、お一人の発言を全員が耳にし、其れを基に複数人間で対話を進めていく事が可能だという事かと思えます。私どもの会でも、当日は全ての方々に近況等を発言いただき、互いをよく知る縁となりました。対面での会が望ましいのは無論ですが、対面では、個々人が会話できる方の範囲がどうしても限られ、全ての方との会話というのは困難です。今後は対面の会と併せてZoom会議を利用していきたいと思えます。

さて、当日のテーマは関西支部をどのようにして活性化するかと言う事でもありました。この点、砂場泰浩副会長(21回生)、中村和徳副会長(27回生)から、助言をいただきました。

社会人の同窓生の参加人員が漸減している事に対しては、1. 同窓会本部に連絡をして、関西地方に在住の方のメールリスト出してもらい、同窓会活動への参加を広範に呼びかける。2. 東京と福岡の代表世話人会を通じ関西地方に在住の方に声をかけてもらい、支部長のところへメールで連絡を貰うことで支部の把握会員数を増やす。さらには、3. 支部長の下に会計、総務、名簿などの担当副支部長を置き組織化を図る。

10月をもって緊急事態宣言も解除され、来春からは曲がりなりにも通常の社会生活が再会され、同窓会活動を活発にすることも可能となろうかと思えます。いただいた助言を基に支部活動の活性化に努めて行く所存です。

上記の如く、各地の同窓生には、今後色々お願いする事も増えるかと存じますが、ご助力お願い致します。

● 中四国支部 ●

附設高校同窓会中四国支部活動状況
附設高校同窓会(2020.4~2021.9)報告

中四国支部長 近藤 治 幸 (16回生)

2020年3月末、今田忠則(19回生)支部長から近藤が引継ぎましたが、4月以降、コロナ感染状況は依然として予断を許さず、その影響が継続していたため、11月に開催予定の定期総会をやむを得ず延期することとしました。同様に、夏恒例の納涼会、新年懇親会も取り止めるに至りました。

なお、9月には、メールアドレスを登録している会員に対し、2019年度支部活動報告(これは12月に送付された同窓会報に掲載される予定の原稿です。)を事前にメール配信しました。これは、初の試みとして、情報の共有とコミュニケーションを図ったものです。

事務局としては、2020年度は(現在も同様ですが)、メールでの意見の交換により、意思疎通を図ってまいりました。2021年度も引き続き会員の皆様とも、メール等を活用したコミュニケーションを図っていきたいと思っています。

今後の課題として、
オンライン会議・打ち合わせ会も
模索したいと思っております。

- 1 《手始めに、2021.5.22(土)「支部長；理事；評議員の打ち合わせ会を「ZOOM会議」で試みました。(別添写真ファイル)》
- 2 《次に、2021.7.18(日)の理事評議員WEB会議及び定期総会WEB会議に参加しました。議事進行に基づいた発言者の発言内容を拝聴する分には良かったと思います。チャット等による意見交換は、参加者の人数にもよるのかなというのが実感です。参考となりました。》

2021年度に入っても、これといった活動を行ってはおりませんが、去る9月30日には、中四国支部活動報告(2020.4~2021.9)を、支部会員宛に配信いたしました。今後は、コロナ禍の鎮静を祈りつつ、2021年11月あるいは12月、2022年1月、それ以降の支部総会

開催を模索しております。

熊本支部(ハイブリッド開催)、東京支部(ZOOM開催)の支部総会開催(同窓会HPを参照してください。)を羨ましく思いながらも、このたびは、できるだけ開催時期を流動的に考慮し、先輩、後輩、それぞれが参集でき、膝を交えた懇親ができるよう意を尽くして参りたいと思っています。

なお、コロナ禍の下、現役の方々の職務遂行のご心労に深く感謝いたします。そして、行政上の対策に奔走されている方々にも厚く御礼申し上げます。

勿論、人知れず、「必要不可欠」の行動も「自粛」しながら、感染対策を励行しておられる皆様方へ、心からありがとうございます、と申し上げる次第です。

会報が発行される時には
『中四国支部定期総会開催』の
記事掲載があることを祈念!!



佐賀県支部だより

佐賀支部長 **志田正典** (22回生)

昨年4月より、三根 茂氏(17回生)に代わり佐賀支部長および同窓会理事を拝命いたしました22回生の志田と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。また、佐賀支部の同窓会評議員も、小林元太氏(31回生)、中里栄介氏(34回生)に交代、佐賀支部会の事務局は引き続き前山英彦氏(33回生)に、芙蓉医会事務局は新しく三根 正氏(51回生)に担当して頂き、皆様方で頼りない私をサポートして頂きます。佐賀支部の新体制のメンバーにつきましても、併せまして宜しくお願いいたします。

佐賀支部の主な活動としましては、例年8月に佐賀支部会(全体同窓会)、2月に芙蓉医会(佐賀県に在住もしくは勤務する医師と佐賀大学医学部生の会)を開催しておりますが、各地区と同様に令和2年度および本年8月は新型コロナウイルスの感染拡大により開催することが叶わず、支部会員の皆様には支部長交代の挨拶も出来ていないままで、大変心苦しく思っております。このような状況が続けば、今後はWebによる開催も検討していく必要があるかもしれませんが、親睦には膝をつき合わせた飲みニケーションが大切かと考え、少し様子を見ています。ただ、私が九州医師会連合会の委員を務めている関係で、8月が同連合会の定例委員総会と重なり、ここ7年程、参加が出来ず、本部や支部会員の皆様方に失礼をしている点、また、2月につきましても、佐賀大学医学部生の学年末試験や国家試験などに重なり、学生の参加者が少なくなっている現状から、今回の交代を機に開催時期の見直しを検討したいと考えております。この会報の欄をお借りして大変、失礼かと存じますが、佐賀支部の皆様には、幹事会で検討した後に改めましてご案内を差し上げますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、今回は活動歴もなく、何を報告しようかと考えましたが、同窓生には医師も多く、私も佐賀市内で内科を開業していることから、佐賀県医師会における同窓生の活動について触れてみたいと思います。私は昨年度より佐賀県医師会副会長を拝命しております

が、佐賀県医師会の役員には、専務理事に貝原良太氏(29回生)、常任理事に枝國源一郎氏(33回生)、理事に島内義弘氏(31回生)がおり、佐賀県の伝統校である西高卒をも上回る数となっています。今回のコロナ禍においては、最前線の活躍というわけではないものの、貝原氏は感染症担当、枝國氏は救急担当、島内氏は多久・小城地区医師会長、評議員の中里氏は佐賀中部保健福祉事務所保健監として、コロナ診療の体制作り尽力し、私もワクチン担当および行政との調整役を務めています。佐賀県医師会では地域医療連携における顔の見える関係づくりを推し勧めていますが、2月開催の芙蓉医会は、まさにこれにうってつけの会であり、医療連携の一助となっています。また、医師会主催の新規研修医の合同オリエンテーションの折には、附設出身者を集めて二次会に連れ出し(自腹です)、医師会への入会をお願いし、多くの入会者を獲得しています。最近ではコロナ禍の中、思ったような活動が出来ませんが、このような附設卒業生の絆や輪を今後もさらに広げて参りたいと考えておりますので、ご協力を切にお願いし、稿を終えたいと思います。

佐賀支部長 志田正典(22回生)

- 1974年3月 久留米大学附設高等学校卒業
- 1980年3月 久留米大学医学部卒業
- 1980年5月 久留米大学第三内科
(現、心臓・血管内科) 入局
- 1990年9月 志田病院 副院長
- 1999年12月 医療法人正和会志田病院 院長
- 2001年5月 医療法人正和会 理事長を兼務
- 2018年1月 医療法人正和会志田内科 院長を兼務
現在に至る

● 東京支部 ●

東京支部長挨拶

東京支部長 栗木 康幸 (21回生)

東京支部では2020年10月10日に37回生の丸山剛弘幹事長をはじめとする幹事団の企画のもと支部総会が開催され、小田恵介東京支部顧問(前支部長 19回生)から東京支部長を引き継ぎました。

支部総会の詳細については次ページの丸山幹事長の報告に譲りますが、年初からのコロナ渦の影響で当初のリアル開催プランからリモート開催への変更など大きな変化を余儀なくされた総会でありました。

支部活動(次々ページ参照)においても、2019年度での20件ほどの報告項目に比べ本年度では6件しかもほとんどリモート開催となるなど大きく制限された1年でした。

この会報が発行されている頃には2021年度の支部総会も開催を終えています。

在京のいくつかの同窓会では同窓会そのものが中止されるということをお伝え聞く中、我が附設高校においてはこうして開催出来ておりますことは、本部、支部役員、回生世話人をはじめとする同窓会会員の皆様のご理解とご協力、そして何より幹事学年の皆さんのご努力の成果であると深く感謝いたします。

一堂に会して懇親を深めるといふ本来の総会の姿を渴望しながらも、インターネット開催によって支部のみならず国内外各地からのお顔が散見されるようになってきており、地域の境目が無くなってきていると実感させられます。

定期総会などは時差を考えなければ世界中から参加を可能にするわけであります。

今後とも新しいあり方としてリアルとバーチャルをうまく組み合わせたいろいろなイベントの方法を模索していきたいと思っています。

東京支部では別表の通り、小田顧問、支部長、副支部長(14名)と東京在住の本部役員をサポートもいただきながら、母校支援につなげる会報掲載広告と教育振興基金への寄付の募集推進、Web名簿への登録推進、終身会費納付率推進などに取り組んでいます。

ここに皆さまのご理解とご協力を再度お願い申し上げます。

まだまだ気を抜けない日々が続きますが、皆さまのご健康をお祈りいたします。

東京支部役職表

氏名	役職	回生	本部役職	回生代表世話人	主担当
小田恵介	顧問	19	理事	★	顧問
栗木康幸	支部長	21	理事		統括/広報(本部)
中村尚昭	副支部長	22	理事	★	総務/縦の交流/広報委員(本部)
原田 稔	副支部長	26	理事	★	総務/若手担当代表幹事
高木裕康	副支部長	28	理事	★	総務/コンプライアンス/監事
日高雄三郎	副支部長	29	評議員	★	総務/附設塾代表幹事
坂本 格	副支部長	30	評議員	★	総務/附設塾幹事/思考回廊委員会(本部)
高尾野健	副支部長	35	評議員	★	総務/回生代表世話人会代表幹事
飯沼良介	副支部長	36	評議員	★	附設塾幹事/思考回廊委員会(本部)
深野 章	副支部長	43	評議員	★	総務/会計/常任幹事
浅枝謙太	副支部長	47	評議員	★	附設ゴルフコンペ代表幹事
中嶋雅宏	副支部長	47	評議員	★	附設塾幹事
山口雅彦	副支部長	50	評議員	★	若手担当幹事
大津良太	副支部長	51	評議員	★	若手担当幹事
竹下知宏	副支部長	57	評議員		若手担当幹事
尾家杏奈	副支部長	59	評議員	★	なでしこ会代表幹事

● 東京支部 ●

令和2年度
東京支部総会のご報告37回生幹事長
丸山 剛 弘 (37回生)

コロナ前が遠い昔のように思われますが、ラグビーワールドカップで日本中が湧いていた2019年10月、私たち37回生は36回生の先輩方から幹事を引継ぎ、翌年10月の懇親会に向け、企画検討を開始しました。特に、2020年度は附設高校創立70周年ということで、世代を超えて一つになれる「校歌」を軸に、冊子やイベントの企画を進めました。

しかし、2020年に入ってから新型コロナウイルスが世界的に猛威をふるい、リアルでの懇親会の開催は難しい状況となっていきました。そして2020年5月末、政府の緊急事態宣言は解除されたものの、社会情勢、参加者・関係者の皆さまの健康・安全を鑑み、10月同窓会のリアルでの開催中止が決定しました。

こうした経緯を経て、2020年10月10日、東京支部総会を初めてオンライン（ZOOM）で実施し、約60名が参加しました。19回生の小田恵介さんが支部長を退任され、21回生の栗木康幸さんが新たに東京支部長に就任されました。

懇親会は中止となりましたが、冊子企画として進めていた校歌の特集は、同年10月12日に同窓会ホームページに掲載され、抄録が12月発行の同窓会報（第27号）にも掲載されました。校歌作詞の大石亀次郎先生のご遺族、作曲の藪文人先生のご遺族へのインタ

ビュー、幻の4拍子の初代校歌作曲者滝田卯夫先生の軌跡、若き日の古田哲先生の音楽活動など、これまでの学校史に掲載されていない史実を多数ご紹介することができました。

なお、10月の総会終了後も、福岡支部の31回生幹事団の先輩方と連携し、同窓会報への広告掲載、および教育振興基金への寄付のお願いを積極的に展開しました。おかげさまで多数の方にご協力を賜り、506万2千円を教育振興基金に寄付することができました。

新型コロナウイルスに翻弄された1年間でしたが、同窓会本部の役員の皆様、東京支部の役員の皆様をはじめ、多くの先輩方や後輩の皆さま、町田校長先生をはじめ附設高校の先生方、メディア総研様、糸川印刷様など関係者の皆様に支えられて、何とか乗り越えることができました。

校歌特集についても、大石家・藪家の皆様、明善高校・伝習館高校・武蔵野音楽大学・久留米大学医学部などの同窓会事務局の皆様、藪先生の教え子の田村徹先生、見事な歌声を披露頂いた附設高校合唱部の皆様、合唱部顧問の兼行孝幸先生(40回生)など、非常に多くの方々のご協力を頂き、仕上げることができました。この場をお借りし、改めて厚く御礼申し上げます。

●東京支部●

久留米大学附設高等学校同窓会 東京支部

令和2年度会計報告書(令和2年4月～令和3年3月)

会計担当副支部長 深野 章

【収入の部】

(単位:円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	2,572,075	3/31通帳残2,364,765円+令和2年度会場費前払い等207,310円
総会収支	18,392	
利息	20	
計	2,590,487	

【支出の部】

支部会議費	69,850	会合費(役員会)
総会関連費	0	
新人歓迎会	0	新人歓迎会に伴う会合費
附設ゴルフ	0	トロフィー代
交流費	0	他高の同窓会・久留米つつじ会等への出席
事務費	7,664	送金料、往復はがき代
小計	77,514	
翌年度繰越金	2,512,973	3/31通帳残2,512,973円+令和3年度会場費前払い等0円
計	2,590,487	

【総会収入】

会費	0	
寄付	0	同窓会本部、ご来賓、有志、幹事回生有志、当日募金等
広告	500,000	
計	500,000	

【総会支出】

会場費	190,000	大手町サンケイプラザキャンセル費用(前金を充当)
交通費	44,360	取材出張交通費
冊子印刷代	227,738	冊子印刷・取材雑費等、広告関連費用(DM、請求書、お礼状/領収書の作成・発送)
総会雑費	19,510	振込手数料等
幹事会合費	0	
計	481,608	

【総会収支差額】

18,392

令和3年度支部活動予算(総会を除く)

支部役員活動費	200,000	会合費(拡大正副会長会、つつじ会を含む)
事業費	200,000	回生代表世話人会、就職セミナー、新人歓迎会等
合計	400,000	

活動報告(令和2年4月～令和3年8月)

令和2年7月11日(土)	第22回東京回生代表世話人会(社会人44名、学生0名@WEB)
令和2年10月10日(土)	東京支部総会(WEB)
令和3年2月13日(土)	2022年度卒業学生向けの就職支援セミナー(WEB)
令和3年4月17日(土)	第23回東京回生代表世話人会(37名@WEB)
令和3年4月17日(土)	くるめつつじ会出席
令和3年7月24日(土)	第23回東京回生代表世話人会(33名@WEB)

上記は当会の財産の状況を正しく表しているものと認めます。

監査担当 高木 裕康



徳永博基 (26回生)

大学在学中に外務省に入省し、イギリスとモスクワで研修。

ポーランド、カザフスタン、シアトル(米国)、ジョージア(グルジア)などで勤務。外務本省においても、ソ連崩壊後は、主に、中央アジアやコーカサスなどロシア周辺国との外交に携わった他、政策評価、地方連携業務などにも従事した。2016年6月よりベラルーシ勤務。2019年9月より、駐ベラルーシ特命全権大使。



ベラルーシをご存じですか？

この夏の東京オリンピックの機会に起きたことなので、記憶に新しい人も多いと思いますが、ベラルーシの陸上選手が母国に帰ることを拒否して、羽田空港で日本の警察に保護を求め、ベラルーシの隣国ポーランドに出国しました。私が、そのベラルーシに勤務するようになり5年が過ぎましたが、当初は、ベラルーシがどこにあるのか良く質問をされたものです。日本の面積の半分よりやや大きいですが、人口は1000万人にも満たないスラブ系美男美女が住むこの国は、ロシア、ウクライナに比べても極端に陰が薄く、知る人ぞ知るという通好みの国でしたが、2020年8月を境に日本のメディアにもしばしば登場するようになりました。そしてオリンピック陸上選手の事件。

実は、ベラルーシと呼ばれるようになったのは、そんなに古くはありません。この国の歴史を太古から語ると頭がゴチャゴチャになってしまいそうですので、20世紀の終わりから始めますと、1991年にソ連が崩壊しました。その構成共和国のひとつに白ロシアというのがありました。国連の原加盟国でもあります。その白ロシアが、独立後、「ベラルーシ共和国」と国名を改めました。そのベラルーシで、1994年以来、大統領の座に居座り続けているのが、アレクサンドル・ルカシェンコです。これまでも大統領選挙が行われると不正選挙だとの抗議の声が上がり、それを力で抑えつけることがありましたが、2020年8月の大統領選挙は事前にルカシェンコの苦戦が囁かれており、その不正の度合いも、これまでになく露骨でした。コロナ禍もあって、国際的な選挙監視も十分に行えませんでした。有力な対立候補が選挙登録直前に逮捕されたりもしました。候補者登録が果たせなかった夫に代わって候補者となったチハノフスカヤが、反ルカシェンコ票を集めて、一説によれば、過半数の票を集めたとも言われます。ところが、中央選挙管の発表では、ルカシェンコが80%以上の票を獲得して再選されたというのですから、市民が大いに反発して、首都ミンスクでは、抗議する市民と治安部隊とが衝突し、流血の事態に発展して死者まで出ました。その後、数ヶ月にわたって、抗議活動が行われて、一時はおそらく20万人は優に超えると見られる市民が、ミンスクの中心部を数キロにわたって練り歩きました。この模様は、日本でも報じられたので、ご覧になった方もいらっしゃると思います。これに対する政権側の暴力に訴えた抑圧は苛烈を極めました。女性や年寄りを含む、多くの市民が投獄されました。あるいは隣国に逃れました。ノーベル文学賞の受賞者スベトラナ・アレクシエヴィチは、変革を求める調整評議会幹部会のメンバーですが、かねてからの私の知己でもあったので、話を聴こうと日本大使公邸に食事に誘いました。しかし、当日、当局に監視されていて自宅から出られないと、結局、本人は現れませんでした。その後、彼女は、事情聴取に捜査委員会(検察のようなもの)に出頭した後に、「持病の治療のために」ドイツに逃れて、未だ戻って来られません。欧米の外交官も、ベラルーシに対する制裁の報復等の理由で、ポーランド、バルト諸国、イギリス、EU、フランスの大使や大使館員が国外退去を求められ、アメリカは、一旦同意した大使の入国が認められないまま、同意を取り消された上に、大使館員数も大きく制限されています。日本は、自由と民主主義、法による支配と言った価値観を共有する欧米諸国と協調して、ベラルーシに対し、暴力や恣意的な逮捕を停止し、真の国民的対話を行うよう、度々、呼びかけています。私は、大使として、時にはベラルーシの政府機関と厳しいやり取りをすることもありますが。呼び出される度に、「今度は『本国にお引き取りください』と言われるかもね」との考えが頭をよぎることがあります。

こう書くと、ベラルーシは恐ろしい国だと思われるかもしれませんが、ベラルーシ人の多くは穏やかで親切な人達です。それに日本文化が好きという人も多く、ヨーロッパで一番将棋人口が多いというのも、日本ではあまり知られていません。チェルノブイリ原発事故の最大の被害国でもあり、ソ連時代から日本との交流もあります。情勢が落ち着けば、ソ連の面影がまだ残っているベラルーシを訪れるのも、ちょっと趣の変わったヨーロッパ旅行ということで面白いかも知れませんね。

そのようなベラルーシの人達に笑顔が溢れる。早くそんな日が来れば良いなあと願っています。

(本文中、見解らしきものについては、あくまでも私個人のもので、所属する組織の見解を示すものではありません。また、全ての文責は私個人にあります。)



スクリプス研究所Ruggeri/Kanaji
ラボメンバー

金地泰典 (高校30回生、中学8回生)

久留米市出身
カリフォルニア州サンディエゴ、スク
リプス研究所

略歴

1990年 九州大学医学部卒業
九州大学医学部第一内科、検査部、ス
クリプス研究所、佐賀大学医学部生化
学、久留米大学血液内科、ウイスコン
シン血液センターを経て2013年より再
びスクリプス研究所、2016年NIHグラ
ントを取得し、ファカルティとして
独立、現在に至る。
血液学、特に止血血栓分野の研究を
行っている。

メールアドレス

tkanaji@gmail.com



ウイスコンシン血液研究所、夏恒例の
ラボカヌー大会後の昼食会

妻と共にサンディエゴの地で 奮闘しております!!

高校30回生の金地泰典です。附設には中高6年間、そして補習科での1年間、大変お世話になりました。私は大学卒業後、九州大学第一内科に入局、血液内科を専攻し、臨床と研究に取り組んで来ました。2000年からサンディエゴのスクリプス研究所に3年間研究留学し、帰国後は佐賀大学、久留米大学に勤務しておりましたが、どうしても再度アメリカで血液学研究に専念したいという思いが強くなり、2008年に再渡米しました。ウイスコンシン血液研究所で研究を再開し、5年後の2013年に再びスクリプス研究所に戻り、8年経ったところです。医師としてはかなりアウトローな経歴ですが、今回寄稿の機会を頂きましたので、アメリカ中西部と西海岸という文化や住民性の全く異なる地での研究や生活をご紹介させて頂きたいと思えます。ウイスコンシンは五大湖の一つであるミシガン湖のほとりに位置し、冬は気温は-30度近くまで下がることもある極寒の地です。冬の寒さは厳しいですが、NHKで放送されていた“大草原の小さな家”イメージそのものの古き良きアメリカを感じさせる街でもあります。豊かな自然に恵まれ、子供たちは2か月以上に亘る長い夏休みの間は郊外のYMCAキャンプで乗馬やロッククライミング、アーチェリーをしたり、湖で泳いだりして過ごしました。火のおこし方や危険な植物の見分け方も習うなど貴重な経験となりました。ミルウォーキーはドイツ系移民が多く、概して真面目で実直な住民性のため仕事もしやすく、また寒冷地ならではの助け合い精神が強く、生活面でも多くの人達に助けられました。以前は日本からの研究留学者がそこそこいたようで、私達の住んでいたコンドミニアムも“ミルウォーキーのリトルトーキョー”と呼ばれていたようです。しかし日本からの留学生は徐々に減少し、私達が最後の日本人家族となってしまいました。その後引っ越したサンディエゴは皆様ご存知の通り年中晴天が多く温暖な気候で、アジア系も多いので生活面でも大変過ごし易い所です。子供たちはウイスコンシンで続けていた乗馬レッスンに代わってテニスを始め、また日本語補習校に週末通うことができるようになりました。サンディエゴの街は20年前と比べて成長を続けており、レベルの高い豚骨ラーメンの店がしのぎを削り、かつて荒野のようだった内陸側にも住宅地が広がり、家賃も高騰し続けています。スクリプス研究所はラホヤの美しい海岸を望むロケーションにあり、トリーバインズゴルフコースに隣接しています。ここで現在私はウイルス感染等の炎症が血液に及ぼす影響を調べており、この研究が近年COVID-19で話題になっているウイルス感染症に伴う血栓症のメカニズム解明に寄与できればと願っております。

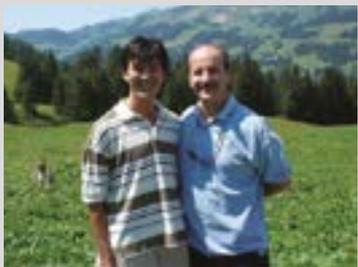
今回のパンデミックでカリフォルニアは長期にわたりロックダウンとなり、必要最低限の外出以外禁止され、レストランや公共施設も閉鎖、町中静まり返りました。一時期は、スクリプス研究所も閉鎖となりましたが、飼育マウスの維持や細胞等の管理のため、研究所から出勤の許可をもらい、何とか業務を続けることができました。研究所再開後も、一時期は全職員週2回PCR検査が義務化され、シフト制勤務を組むなど厳しい制限が敷かれました。制限が解除された現在も変異株への懸念から研究所は全職員マスク着用とワクチン接種が義務化されています。日常生活においては今年6月によりやくレストランの店内飲食が再開し、スーパーマーケットでの買い物のため外に並ぶことがなくなりました。しかしながらコロナ渦で人種間の緊張が高まり、ハンチントンが予言した“分断されるアメリカ”を肌で感じているのも事実です。サンディエゴと成田のJALの直行便は長期にわたり運休していましたが、今年春に運航が再開しました。そしてこの秋、私は2年半ぶりに一時帰国することになり、14日間の自主隔離期間にこの海外だよりを執筆しております。以前のように日米を自由に行き来できるようになるにはまだ時間がかかりそうです。

私は特に語学が堪能な訳でもなく、立食パーティーなどが大の苦手で非社交的な人間ですので、自分が海外で長く暮らすことになるとは思ってもみませんでした。しかし気が付けばアメリカ生活が通算15年を超え、子供たちは生まれ故郷のサンディエゴで高校卒業まで過ごすことになりました。この期間には9.11の同時多発テロがあり、また現在は100年に一度と言われるパンデミックに見舞われています。コロナ禍の影響は多岐にわたり、研究の継続も厳しい状況ではありますが、まさにこの時期に関連あるテーマで研究できる偶然に感謝しながら、同じく医師であり研究者でもある妻と共にサンディエゴの地で奮闘しております。



おお くら ゆたか
大 倉 豊 (38回生)

1994年東京大学法学部卒業。
伊藤忠商事を経て、ソニーに中途入社。欧州（フランス、スイス）、ラテンアメリカ（マイアミ、カラカス）駐在を経て、本社で構造改革事業に携わる。海外のうち、2年はダボス会議の本部事務局にて、初の日本人事務局員として従事。
のち、Google日本の経営管理本部長として入社、米国シリコンバレーの本社に移籍後に個人事業主として独立、現在に至る。社会人生活の半分以上を海外駐在。



Swiss National Day



Santa Monica



SF view from SV

「や・ゆ・よ」の精神

38回生の**大倉豊**（おおくらゆたか）と申します。この度は貴重な機会をいただき、同期、先輩・先生方、同窓会事務局の皆様のお力添えに、厚く御礼申し上げます。



Silicon Valley

真面目な仕事の話は皆様、おそらくご興味がないと拝察しますので、「youは何しに海外へ？」というお話をしたいと思います。

私は中高の6年間で、幸運なことに扶桑学寮で過ごさせていただきました。通学片道2時間以上かかるという理由と、恐らく親が多感で面倒な中高生の生活管理を寮に任せ、というのがあったかと思えます。

今はどうでしょうか。30年前の当時はインターネットもテレビもなく、部活後にやることはありません。ですから「地球の歩き方」という本をいくつも買って、海外への現実逃避への妄想を広げていたのです。片田舎の寮生がやる部活が勉強以外の楽しみは、裏店でお菓子を買うか、それくらいしかなかったのです。それがために良い意味で、ここから絶対に世界に羽ばたいてやる、という強烈な精神が育ったのです。親は公務員で3兄妹を大学に通わせるお金も潤沢にない、しかし、国立大なら東京に行かせてやるというので、俄然やる気になったのです。

そういう生き立ちで上京・就学・就職したものの、思いとは程遠い国内での現場廻りを通じての新人育成期間を数年以上。これではと思い、すぐにでも海外に出してくれるというメーカーに転職しました。私は大学の第二外国語選択のスペイン語を結構真面目にやっていたので、南米に行かせてくれと懇願したところ、本当になんていただけました。まさか最初が言葉も喋れないフランスだとは夢にも思いませんでしたが（人事あるある、ですよ）。

キャリアで一度「海外」の色が付くと、その後はそういうところからお話が回ってきます。

サッカー好きの私は欧州と南米駐在ばかりの生活を期待していましたが、当たり前ですがビジネスの現場は甘くありません。世界で勝つには、アメリカ合衆国で儲けてナンバ、の世界です。

それで本場で一番アツいところを見てやろうではないかと、シリコンバレーに本社のある日本支社に転職したのです。

運はどこに転がっているか分かりません。幸いにも本社勤務となり、憧れのシリコンバレーにきました。でも、実際に働いてみると、こんなものか？と感じ、思いもあって現地でも独立しました。（それでも、永住権取得をサポートいただいた会社には感謝です）

閑話休題。

振り返ってみると、附設で学んだ「やる気・勇気・陽気」の「や・ゆ・よ」の精神があったからこそ、道が拓けたと思います。日本企業でも外資もですが、やる気は必須。勇気を持って新しいプロジェクトや仕事に自らが first penguin として取り組む。でも、一番大事なのは、陽気です。海外では特に、つまらない顔やいつもむっつり顔をしている人に、仕事は回ってきません。余裕を持って、明るく振る舞うと、自分に返ってくるのです。上司も同じです。日本では、本人は意識していなくても、気難しい顔して話しかけるのが大変そうに見える方って、まだいらっしゃいますか？海外では完全にアウトですよ。AKB48ではないですが、「会いにいける上司（いつでも話しかけやすい人）」が基本です。（アフタファイブのノミネーションで償うという発想は、アジアを除いて、基本的にはありません。人材育成について、俺についてこい、俺の背中をみて自分で盗め、というのは平成後期から令和ではあり得ない話です。）

今回の趣旨に合うお話ではなかったかもしれませんが、附設卒業生が附設の魂を持って、海外の現場で明るく楽しく、もがいていることをお伝えできればと思いました。



みやもと ひろ ゆき
宮本博幸 (18回生)

1951年12月久留米生まれ(69歳)
1974年 慶應義塾大学工学部卒
1976年 慶應義塾大学工学研究科修士課程修了
1979年 フランス国立ロレーヌ工科大学博士課程(フランス政府給費留学生)修了・Docteur-Ingénieur取得
1980年-1989年 東京女子医科大学医用工学研究施設助手
1989年 フランス国立健康医学研究所(INSERM U103 Montpellier)外国人上級研究員
1989年-2014年 千葉工業大学情報学部助教授・教授
この間、慶應義塾大学、早稲田大学、東京女子医科大学非常勤講師を務め、20年間にわたり、科学部門フランス政府給費留学生の会長
2014年-2018年 (独)日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター長
1997年 マルチメディアコンクール・メビウス国際賞受賞(パリ ユネスコ本部との共同研究)
1998年 フランス共和国からパルム・アカデミック勲章受章
2002年 慶應義塾大学理工学部矢上賞受賞
メールアドレス
PBC00537@nifty.com



福岡の18回生



東京の18回生



2019年東京支部総会にて

時は過ぎゆく — 古稀の「おもてなし」 —

Un train peut en cacher un autre.

列車は(反対側から来る)別の列車を隠していることがある。列車の後にまた列車。

これはフランスの踏切で見かける注意である。転じて、「ひとつの事象は他の事象を見えなくしていることがある」、「これにはとんでもない裏があるかもしれない」という意味にも使われる。

18歳で附設18回生として卒業したわれわれは、附設と共に年輪を重ねてきた。今年、70歳、古稀を迎える。附設高2年生のとき、メキシコシティーで夏季オリンピック大会が開かれ、日本サッカーチームは銅メダルを獲得し、盛り上がった。その夏、附設は御井校舎から野中校舎に引越、それまでの旧兵舎(一説には馬小屋)だった校舎は鉄筋コンクリートに、大学から借用していたグラウンドも自前になり、思う存分、勉強、スポーツに励むことができるようになった頃である(同窓会報20号で藏守俊昭君(18回生)が詳細に綴っている)。

2013年9月7日、ブエノスアイレスで開かれたIOC総会で、2020年夏のオリンピック大会が56年ぶりに東京で開催されると発表された。最終プレゼンテーションでは「お・も・て・な・し」という言葉で日本のホスピタリティが紹介され、世界各国の注目を集めた。そして、2020年は、18回生が附設を巣立って50年の節目の年だった。2020年に大同期会を開くことが2018年には提案され、福岡と東京で、みんなの希望を集め原案を練った。そして、2019年暮れには、往復ハガキで大同期会を翌年10月24、25日に開くというお知らせを送り、出欠を尋ねた。これを機に連絡先不明者を同期に尋ねると少しずつ判明。1泊2日の予定で、久留米に集まり、母校見学後、筑後川温泉で宴会を開き、翌日は近隣観光、またはゴルフコンペという計画だった。久しぶりに集まるということで多くの同期生から期待の言葉と共に返事が届いた。中には奥さん同伴で参加し、母校を見せて日頃の附設に対する誤解を解きたいと書き添えられたものも。

年が明けたら世の中が一変。中国で原因不明の感染症が発生したというニュースが飛び込んできた。しかし、100年前のスペイン風邪のような世界的な流行は起きず、封じ込めることは容易だと世界は高をくくっていたようだ。感染が起きたクルーズ船の横浜入港で、世界の耳目を集めた日本はその対応に追われた。やがて、2回目の東京大会が翌年に延期されることが3月末に決定。7月には東京・福岡の世話役がインターネット上で協議したが先が見通せない。世界中が感染症対策に追われる中、大同期会の延期を決定。迎えた2021年は古稀を祝う年だが、流行は一向に収束する兆しを見せない。1940年幻の東京大会に続き、2020年オリンピック大会もこのまま消滅か？

東京招致のメッセージに秘密が隠されているのでは? 「お・も・て・な・し」=表なし、ということは「う・ら・が・あ・る」=裏がある。何の問題もなく行われるのではなく、「困難」という裏が付いていた。それにもかかわらず、今回のオリンピック・パラリンピックはコインの裏表のように一体となって、世界に感動を与えたのは救いであった。大同期会も早く開催したいものである。これまでウイルスといえば、コンピュータウイルスを指していたが、昨年来、新型コロナウイルスを指すようになった。「注意! ウイルスの後にまたウイルス」

目先に囚われず、大事なことを見逃すことがないようにしなければ。

還暦を迎えて(27回生)

古川 幸稔 (27回生) (東京支部・回生代表世話人)

1979年 附設高校卒業、京都大学法学部
入学
1985年 大学卒業、三井信託銀行(現・三
井住友信託銀行)入社。
主に不動産関連業務に従事。
また中央三井信託と住友信託の合併
に伴い、不動産子会社の業務統合作業
も担当。
2014年 公益財団法人 不動産流通推進
センターに転籍
不動産コンサルティング技能試験の
運営・教材等作成、宅地建物取引士関
連の講習テキスト作成等に従事。
現在 同センター企画調査部・参事(嘱
託)

1. 我々27回生は、基本的に昭和35年度(1960年度)の生まれである。

2度目の東京オリンピックが開催されて記念の年となる令和2年(2020年)に我々は還暦を迎え、久しぶりに大勢の同級生が集まって盛大な還暦同期会を開催!……するはずだった。実際に、同年5月16日(土)開催予定として久留米に近い原鶴温泉の旅館を予約し、母校への訪問や、翌日はゴルフまたは周辺観光を企画するなど、具体的な計画を立てていたのだ。しかしながら、皆さんご存知の通り、春先からのコロナ感染拡大と全国的な緊急事態宣言の発出により、還暦同期会の実施は断念せざるを得なくなった。本年、東京オリンピック・パラリンピックは1年遅れで開催され、様々な意見もありつつ兎にも角にも閉幕を迎えたが、夏場のコロナ感染拡大(第5波)もあって、9月末現在、我々の還暦同期会は未だに実施できないままとなっている。

2. これまでの先輩方のようなにぎにぎしい還暦同期会の実施報告ができないので、代わりに我々の来し方を世相と共に少し語らせていただきたい。

経済白書が「もはや戦後ではない」と宣言したのは1956年であるが、今から思えば、我々が生まれた1960年は太平洋戦争の敗戦からまだ15年しか経っていない時点である。その時の記憶は当然ない訳だが、まだ戦争の名残のようなものが各所にあったのではないかと思う。同年2月には今上天皇である浩宮徳仁親王が誕生された。祝賀ムードの一方で、東京では日米安保条約の反対闘争、福岡では三井三池炭鉱の労働争議も発生し、騒然とした時代でもあった。その後、日本は高度経済成長期を迎えたが、1964年の前回東京オリンピック、1970年の大阪万国博覧会を経て、1973年の第1次オイルショックと共に高度経済成長は終焉を迎えた。

我々が高校に入学した昭和51年(1976年)の最も記憶に残る出来事は、田中角栄首相が逮捕されたロッキード事件であろう。その頃の附設高校は当然ながら男子校であり、男く祭に久留米信愛女学院などの女子高生が来るのにも、胸がときめく時代であった。27回生の大きな特徴は、高校から入学したA・B組と、附設中学から進学したC・D組が、卒業まで一度も交わらなかったことである。後日先生方などから伺うと、これは同窓生でも我々の回生だけとのことである。同じ文化部や同好会(高校の運動部は、まだない)の者などを除き、よく知らない同級生も存在する学年であった。昭和54年(1979年)に高校を卒業したが、その年に流行っていたものはインベーダーゲーム(喫茶店やゲーセンのテーブルゲーム)とカセットウォークマンである。ちなみに、同年から大学入試の共通1次試験が開始されており、現在の「大学入学共通テスト」に繋がる歴史の中で、我々が大学入試新制度の第1期生となった。

大学を出て社会人となった1980年代半ば、世の中は「バブル景気」の時代を迎え、国中が財テク、地上げや不動産投資に奔走する。その頃、我々あたりの若者は「新人類世代」と呼ばれた。しかし、世の習い通り、狂乱の時代は長くは続かず、1990年頃からは、後に「失われた20年」と呼ばれるバブル崩壊に伴う長期低迷の時代を迎えることになる。その後、経済的な持ち



(写真1) 福岡支部総会 2016年



(写真2) 福岡同期会 2020年

直しの中にも、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などの自然災害が多発する。世界的には、1991年のソビエト連邦崩壊により資本主義・自由主義陣営の一人勝ちになるかと思われたが、その代表であるアメリカで、中東の混迷に関連する9.11同時多発テロ、リーマンショック、トランプ政権による混乱などが連続して発生しており、欧米や日本でも安定的とは言い難い状況が続いている。更には、スペイン風邪以来100年ぶりとなるコロナ感染症による世界的パンデミックの発生となった訳である。

ここまでの話は、若い世代の方からすれば歴史の本で見た事柄の方が多くははずだ。我ながら改めて思うのは、特に大学を出た以降、なかなか激動の時代を生きてきたということだ。

話を我々27回生のことに戻すと、先に述べた通り在学中に高校組と中学組の合流がなかったこともあって、高校卒業後、全体での同期会などは行われていなかった。これが変わったのは、我々が50歳を迎える平成22年(2010年)に附設高校同窓会・東京支部総会の幹事を務めたことである。前年より関東在住者を中心に全体で連絡網を整備し、準備のため集まるようになった。更に、平成28年(2016年)に福岡支部総会の幹事を務めたこともつながりを一層強くした(写真1)。これらによりコロナ感染拡大の前までは、東京地区では3か月おきに10数人ながら飲み会を実施し、また、地元福岡では毎年正月明けに全体での同期会を開催するようになった(直近は昨年1月、写真2)。

個人的にも、ここ10年ほど、同期で「オヤジキャンプ部」を組織し、年2～3回程度のキャンプとハイキングなどを行っている(写真3・4)。家族でキャンプに行くこともなくなり、「オヤジだけ集まってキャンプでも行かんね」と声掛けして集まったのがきっかけである。

3. 附設高校に通ったことは自分の人生で重要な部分を占めており、同期や同窓生とのつながりを有難く感じている。

我々27回生も昨年還暦を迎えてシニア世代となり、医者などの自営業の方を除くと、いわゆるセカンドライフを迎える時期である。私自身も昨年、2つ目の職場で定年となり、嘱託で継続雇用となった。様々な意味で今後の人生を見据える時期である。今後の世相を考えると、高齢化社会の一層の進展や、今後30年以内に発生する確率が高いとされる南海トラフ地震もあり、なかなか楽観的には行きそうもない。そんな中でも自分としては、校歌にある「修羅道の世を救うべく」とまでは行かないにしろ、現役とは少し異なる立場で社会にも関わって行きたいと思う。

最後に、お世話になった先生方へ改めて感謝するとともに、先に旅立った同期のご冥福を祈りつつ、今後も附設高校のつながりを大事にし、また、微力ながら母校の応援にも協力したいと思っている。直近の一番の目標は、見送りとなっている還暦同期会のリベンジ開催である。



(写真3) 尾瀬キャンプ 2018. 6. 30



(写真4) 尾瀬沼 2018. 7. 1
(右端が筆者)



かわ むら なお き
河村直樹 (32回生)

財務省東北財務局長
1965年(昭和40年)大牟田市生まれ
東京大学法学部卒業
東京国税局総務部長、財務省地方課
長、福岡財務支局長等を経て、令和元
年7月より同3年6月まで内閣官房東
京オリパラ競技大会推進本部事務局企
画・推進統括官

オリパラ東京大会と附設

冒頭から、クイズになりますが、獲得し難いものの例えとして、総理大臣ポスト、ノーベル賞、五輪金メダルを挙げることに異存がある方は少ないと思います。では、この3つの獲得者を一つの高校(旧制中学時代を含む)から輩出している例は全国に何校あるのでしょうか？

紙幅の関係があるので、すぐに答ですが、日比谷高校と横須賀高校です(以下、個人名につき、敬称略)。日比谷高校は、総理が阿部信行、ノーベル賞が利根川進、金メダルが西竹一で、横須賀高校は、総理が小泉純一郎、ノーベル賞が小柴昌俊、金メダルが猪熊功です。これは、私がこの夏まで勤務した内閣官房東京オリパラ大会準備局に着任するにあたり、博識な財務省OBから小話として教えてもらった話です。

ちなみに上記の3つのうち2つの要件を満たす高校は、ネットで簡単に調べた範囲なので特に団体戦がある金メダルにつき難がありますが、宇部高校、北野高校、富山中部高校、藤島高校、山口高校ときて、福岡県では総理の廣田弘毅と水泳金メダルの葉室鐵夫が出た修猷館高校です。福岡県外の方から見ると、ノーベル賞につき、福岡高校から大隅良典が出ているので、まあ、似たような高校だし、3つを兼ねたも同然ではないかということになるかも知れません。

前置きのトリビアが長くなってしまいましたが、まだまだ総合力で修猷館・福岡・筑紫丘に及ばないと言われなき(?)指摘を受ける、わが附設の卒業生からこの3つのどれかを獲得する人が出るかは、特に金メダルに関し、一番ハードルが高い感じが致します。

では、五輪と附設が無縁かと言えば、今回の東京大会の開催に大いに貢献した組織として、内閣官房オリパラ事務局があると自信をもって言えるのですが、その数十人の組織の中で3名が附設出身であったことをご紹介します。36回生の小山和久さん(経済産業省)、43回生の大坪弘敏さん(国土交通省)、ついでに32回生の私(財務省)です。もちろん、最大勢力でありました。

ご指摘を待つまでもなく、東京大会の主催者は東京都であり、大会組織委員会なわけですが、新型コロナウイルス感染症により、同大会が延期になるに及び、大会実施の可否につき、同感染症対策が中心となってしまった関係上、政府が矢面に立つこととなりました。その中で多くの専門家の話を聞く必要が生じたのですが、私が最も立派だと思った方の一人に、あるデータサイエンティストがいました。

彼はゲノム解析のプロでもあり、「スパコン京の開発にも関与しましたが、今回の私の分析にスパコン富岳はフィットしません」といったコメントができる超一流の専門家であったと思います。残念ながら附設出身ではありませんが、上位三校ではない福岡県立高校の出身であり、偶然それを知った際に、こちらから「実は私、附設出身なんですよ」と名乗ったところ、「そうですか。附設ですか」と大いに話が弾んで、多くの知見を提供してもらった幸運に恵まれました。

時として、福岡県立上位3校に対抗心を剥き出しにされるような話も聞いたりするわけですが、既に全国トップクラスの方々にはしっかり附設の存在感は認識されているところであり、福岡のトップなどとケチなこと(?)は言わず、九州、いや日本全体に貢献する存在として附設のプレゼンスを高めていく発想があっても良いのかも知れません。といいつつ、まだ、私自身の発想が、福岡の枠を越えきれていない気が。そう、まずは福岡トップです。多くの福岡県出身者を擁すると聞く、ラ・サール高校も福岡県における存在感は大きいですからね。



橋本聖子・東京オリパラ競技大会組織
委員会会長を現在の職場にお迎えて



小林 要慈

(僧名は信翠)

(高校38回生 中学16回生)

経歴

昭和46年、福岡市出身。
筑波大学、横浜国立大学大学院にて臨床心理学を専攻。公認心理師。
平成7年に得度、名古屋、横浜、京都の各寺院で修行し、平成27年より光薫寺住職(福岡市博多区山王)。
座右の銘は「至誠、仏天に通ず」。
趣味は登山・筋トレ・ランニングに畑仕事。
SDGsおてらネットワーク副代表、お寺YOGA協会顧問、死の体験旅行®ファシリテーター、風水書24公認ファシリテーター、防災士。

※① 高野陽太郎著『「集団主義」という錯覚—日本人論の思い違いとその由来』新曜社

※② 世界の異なる国の人々の社会文化的、道徳的、宗教的、政治的価値観を調査するため、社会学者によって行われている国際プロジェクト

修羅道の世にあって

「これからの三年間で迷惑をかけることができる、一生の友達を作って欲しい。」

高校の入学式で、生徒会長だった諸岡健雄先輩(36回生)のご挨拶だ。普通なら「他人に迷惑をかけないように」とでも言うところが、まったく逆だったものだから30年以上前のことなのに未だに覚えている。

今年の3月まで地元小学校のPTA会長をしていた関係で、保護者の方々と子育てについて話す機会に恵まれたが、「他人に迷惑をかけない人になって欲しい」という意見を聞くことが多かった。調べてみると、これは日本人特有の価値基準のようである。

たとえば東京大学の高野陽太郎教授によると、「日本人は集団主義的という通説は誤りで、個人主義と言われるアメリカ人とさほど差がない」と指摘しているし(※①)、「世界価値観調査」(※②)では世間体や人の目を気にする「ムラ社会」という特徴があることが現れている。つまり、「和」を重んじる国民性の一方で、お互いに迷惑をかけ合わないようすることで社会的な摩擦を最小化する傾向があるとのこと。言ってみれば「他人に迷惑をかけない」という条件付きの個人主義ということだろうか。

しかし、インドなどでは子どもに「あなたも人に迷惑をかけて生きているのだから、人のことを許してあげなさい。」と教えているとも聞く。少しニュアンスが違うが諸岡先輩の言葉に通じるものがある。闇雲に「他人に迷惑をかけない」としゃちほぼるよりも、世知辛い「修羅道の世」にあっては大切にすべき価値観なのではと思う。

「修羅道」は仏教語だが、争いが絶えない世界のこと。その根本は「^{がたびし}我他彼此」だ。自分と他人、彼と此とが対立し衝突して葛藤が絶えないことを言う。つまりは希薄な関係性が前提となっている。

一方で、日本には古くから「袖振り合うも他生の縁」という言葉もある。諸説あるが、仏教の「縁起」についての考え方が基になっている。仏法的に厳密に言えば「他生」ではなく「多生」、つまり何度も生まれ変わりする中でつながった縁ということだが、この際どちらでもよい。要は人との繋がりとはかくも稀なことであり、厳かなものだ。だから有ることが難しい、有り難いもの。どこでどうつながるか、わかる由もないほど妙不可思議なものである。

先日、ある方のご紹介で附設高校最後の担任だった藤山正紹先生のご息子にお目にかかった。先生はすでに他界されていて、葬儀にも参列したので息子さんのことはうっすら存じ上げてはいたが、同じ大学・同じ部活の大先輩でもあった。お話を伺うと、今般、教職をお辞めになって正式に僧侶になれるとのこと。宗派は違えど、ご縁を感じざるを得ない。お互いの精進を誓い合ってお別れした次第である。

仏教の修行の目標はさしあたり「自分の苦から解脱する」ことだが、それは「人々を苦から解脱させる」ことを通してしか実現しない。つまり、自分と人々が同時に苦から解脱していくわけだ。その前提にあるのは我他彼此の逆、縁だ。この世界には網の目のように縁がもつれあっているのだから、一つひとつの縁を大切に受け止めることが校歌に込められた理想を実現する基になると確信している。

思えば高良山下で過ごしたあの数年間は、今につながるたくさんの縁を結んでいただいた日々だった。その縁を紡いでくださる場がこの同窓会であり、諸先輩方には感謝しかない。自分もこれから少しでもお役に立ちたいと思っている。



則尾 弘文 (32回生)

1991年 防衛医科大学校卒
 2005年 航空自衛隊を退官し、済生会
 福岡総合病院 救命部
 2009年 佐賀大学医学部附属病院 救
 命救急センター
 2010年 済生会福岡総合病院 救命救
 急センター長

新型コロナウイルス禍で 救急病院は何をした？

1. はじめに

同窓の野田英一郎君(36回生)から、福岡での新型コロナウイルス対応の詳細な寄稿があると思うので、地域の救命救急センターで勤務する救急医の立場で寄稿します。

2. 救命救急センターとして

同窓生に医療関係者が多いのは承知の上で、当院の紹介から。当院は福岡天神のど真ん中にある総ベッド数380床の中規模病院です。救急・高度専門医療を必要とする傷病者を24時間受け入れる体制を整えた救命救急センター(重症用ベッド数50床)の認可を受けています。救急隊からの搬入依頼は、ほぼ断らず受け入れ、年間の救急車台数は約4000件で、福岡地域の救急医療を支えるという役割を担っています。当然、一刻の猶予も許さない超緊急・最重症が多く集まる傾向があります。

3. 新型コロナウイルス発生当初

中国起源とされている新型コロナウイルス感染が、数か月後ついに、横浜を出港した大型クルーズ船内で発生しました。出張先の海上保安庁から見た、まだ乗客全員の下船許可が進まない大型客船の背景の空や海は灰色でした。

この頃は、感染力や死亡率の高さがインフルエンザの比ではない位の、粗雑に作られた国外ニュース情報しかありません。我々、救急医も未知の力を秘めたウイルスに対峙していく覚悟を持った一方、医療者としての対応能力に不安を抱いたままの時期でありました。

4. 蔓延期・緊急事態宣言下

大型クルーズ船関連のセンセーショナルな報道が一段落し、政府の感染症対策への批判や民間予防法特集が、毎日のワイドショーで賑わう頃、感染症指定医療機関の飽和状態が予測され、いよいよ当院でも感染者の受け入れ態勢を整備する時期が来ました。病院長(松浦弘21回生)が早々に、福岡地域での当院の役割である一般重症患者への救急医療提供を制限する事なく、新型コロナ対応を行うという明確な方針を打ち出しました。これは、終始一貫して継続されています。

初期のプレハブ小屋でのコロナウイルス感染者の選別外来開設を経て、第2波以降は、特に重症化した感染者を積極的に受け入れる体制を築きました。救命救急センター病床50床を短期間で改修し、随時、看護師の配置転換を行い、最大時には30床をコロナ専用病床として運用しました。つまり残りの20床で、一般の重症患者を受け入れざるを得なくなりました。新たな救急患者に備えるため、まだ集中管理が必要な方でも、一般病床へ移動させ、高度な治療を継続するのは、患者様にとっても危険を伴い、医療スタッフにとっても大きな負担となることは想像に難くありません。幸い、大きな混乱・事故もなく乗り切れたのは、患者様方のご理解やスタッフ同士の互助努力に因る面もあるかもしれません。当然、市民への行動制限がかかったことによる交通外傷や一般負傷が減少したのも救急医療の崩壊を免れた一因でもあります。

蔓延するウイルス感染症対応については、長期にわたり一部の医師に過大な負担がかかり、疲弊してしまうのを防ぐ必要があります。そのため、入院管理は、重症度により各診療科が分担して担当する体制が敷かれました。必然的に、人工呼吸器や人工心肺の取り扱いに習熟した救急科が最重症患者を受け持つこととなりますが、一方で、一般救急の受け入れや、重症外傷などの入院管理も継続させなくてはなりません。第4波のピークには、医療スタッフの疲弊も見受けられる時期がありました。第5波にはワクチン接種も進み、また、スタッフがコロナ治療や看護に習熟してきた事もあり、比較的多数の重症者にもどうにか対応できるようになり、ギリギリのところまで、救急医療の崩壊までは至らなかった感があります。

次の第6波が、どの速さ・高さで襲来するか分かりませんが、福岡市以外の一部都市で起きたような医療崩壊が起きない保証はありません。少し落ち着いた今だからこそ、システムの見直し・改正をする必要があります。

5. これから

多大なる経済的・精神的・身体的犠牲のもと、新型コロナウイルスの第5波が原稿を執筆している段階で収束して行きつつあります。不自由な社会生活を強いられていますが、これまで封建的と言われてきた医療現場にも、新しい潮流が出来てきました。新薬や新しい治療法の認可は例外的に早急に進みました。また、病状の安定した患者様が、直接来院しなくても診療・処方を受けられるオンライン診療にも一定の評価が得られるようになりました。これまで集中治療室では患者様への面会が極端に制限されていましたが、オンライン面会を可能にする機器導入も一気に進みました。さすがに医師・看護師のリモート出勤はできそうにありませんが、リモート会議の便利さも実感できました。これまでは自病院以外他施設の空床状況やリアルタイムの診療余力は明らかにされていませんでした。前述の野田君が中心となり、コロナ関連では病院間での情報の共有が可能となりました。このシステムはコロナ終息の後にも発展させて、地域の救急医療システムとして転用できそうです。

6. 最後に

「会報」への寄稿という、多くの同窓生のお目に触れることから、「推敲」を重ねましたが、取り掛かる度に「蛇足」を追加してしまい、取り留めなくなったことは反省しております。締切期限を理由に終わらせていただきます。



野田 英一郎(36回生)
(国立病院機構九州医療センター 広域災害・救命救急センターセンター長)

昭和63年 卒業
 平成元年 補習科卒業
 同年 九州大学医学部合格
 平成7年 同卒業
 同年 九州大学医学部附属病院研修医(麻酔科蘇生科)
 平成10年 日本大学医学部附属板橋病院救命救急センター勤務
 平成11年 九州大学大学院麻酔蘇生学教室助手
 平成16年 九州大学病院救急・集中治療部(現・救命救急センター)助教
 平成27年 福岡市立病院機構福岡市民病院救急科科长
 令和2年 国立病院機構九州医療センター救命救急センターセンター長

コロナ禍に学ぶ、DX時代の医療体制

COVID19は日本の保健医療に存在した多くの問題点を顕在化した。保健所数・職員数の削減、急性期病床数の削減、感染対策、救急医療体制などである。

昨年3月31日に福岡県では新型コロナウイルス感染症調整本部の初めての会議が開催されたが、会議終了後、県庁内の担当課が非常に混乱し、陽性者の入院先が決定できない事態に陥っている状況を目の当たりにした。私はその場でDMAT(災害医療派遣チーム)の調整本部への派遣を決定し、調整本部への常駐を開始した。

調整本部では県内で発生した陽性者の入院調整を行ったが、そのために必要な病院からの空床情報、入院状況を収集し、医療機関だけでなく、県や保健所設置市(福岡市、北九州市、久留米市)と、従来のFAXやメールによらない、Googleの無料サービスを用いたリアルタイムの病床情報共有システムを、36回生同期の山口征啓(当時健和会大手町病院感染症内科部長、現コネクト合同会社CEO)と立ち上げた。このシステムの活用により、迅速かつ効率的な入院調整、病床確保ができ、福岡県では少ない人口あたりの確保病床数で対応し、コロナ診療以外の一般診療や救急医療に過度な制限を課さずに済んだ。現場の人間が必要と思う情報を、現場の人間の負担を増やさず、リアルタイムに集め、共有する。行政主導ではこのようなスピード感を持った迅速な対応は困難であったであろう。

福岡県では波を経験するたびに対応策を講じてきた。病院への負荷を軽減するために軽症者用の宿泊療養施設として10棟2000室のホテルを借り上げ(人口あたり全国一)、医師に24時間常駐してもらった(全国唯一)。また、夜間の救急車搬送のたらい回しを防ぐために、コロナ患者受け入れ病院の夜間土日当番制を導入した(全国初)。

このような工夫と医療機関の努力により、入院が必要な患者を入院させられない事態はかろうじて避けることができたが、それでも宿泊療養施設ではSpO₂が低下しないと入院できない事態や、酸素投与を行って一晩入院を待機してもらった人も発生した。宿泊療養施設に空きはあったものの受け入れの事務作業のキャパシティを超えた新規陽性者の発生で自宅待機者も増えた。

コロナ対応のために構築したシステムではあるが、地震、水害などの自然災害での傷病者の入院調整にも活用でき、また通常の救急医療でも使用可能である。現在自然災害などで使用されているEMIS(広域災害医療情報システム)や地域の救急医療情報ネットワークを補完するものとして両立可能である。

従来医療機関は病床の稼働状況を公開することはなく、患者の取り合いを行ってきた。また自治体の枠を超えた情報共有システムも存在しない。コロナのような新興感染症のパンデミックにおいては医療機関同士、自治体同士で協力していかなければ対応は困難であり、そのためには情報の共有が不可欠であった。地域医療構想、地域包括ケアの中では、人口減、超高齢化社会を迎えるに当たり、急性期病床の削減も計画されていたが、コロナの影響である程度の余裕を持たせた病床確保が求められる。限られた病床数で対応するためには効率的な運用が必須であり、福岡県のコロナ対応システムはこの基幹システムとしても流用可能である。そうやって初めて本システムはレガシーになるであろうが、このシステムの前提となる、関係機関同士の情報共有と協力体制の構築こそがこれからの医療・保健に求められているパラダイムシフトと考える。



2021年、的場哲哉(38回生、50歳)、
的場ゆり(67回生、21歳、東京大学)

的場哲哉 (38回生)

共学になった附設、 変わらない附設

高校38回生、1990年に附設高校を卒業しました。その後、九州大学医学部に進学し、現在は九州大学病院で循環器内科医師として勤務しています。校舎の建て替えとともに中学も共学となり、娘・ゆりがタイミングよく中学女子の第一期生、高校67回生として附設生となりました。子供が自分と同じ学校に進む、さらに久留米附設という名門校に進むということは、単純に嬉しいことですが、その間、男子校から共学に変わった附設高校を実感することになりました。今回、同窓会からのご依頼を受け、共学になった新しい附設について書いてみます。

先生について

私の担任であった松崎文雄先生がゆりの副担任になっていただいた事は驚きでもありましたが、私が在籍していた当時大人に見えた松崎先生も実は30代の若い先生だったのだと妙に納得しました(写真2)。さらに、サッカー部でお世話になった故古賀直先生、白水孝典先生、数学の佐々木健治先生、田中真弓先生も在任されており、ゆりの担任の兼行孝幸先生は附設生で私の在学中の事を覚えていて下さいました。中学共学化に併せて女性の先生も増えたようで、学校の配慮を感じました。安心して子供をお任せできたのは大変幸運で、現役の先生方も附設に長くお務めいただきたいと思いました。

友人関係について

私が男子校であった久留米大学附設中学に入ったのは1984年、ベビーブームの世代であり、小学校の頃からこぞって学習塾に通い、今思えば競争の激しい時代であったように思います。附設中学に入学した当初、各小学校のトップクラスの生徒が集まったからか、男子校だからか、主導権争いの小競り合いを続けながら部活や課外活動でそれぞれの強い友人関係が出来上がっていったように思います。ゆりの時代の友人関係はどうだったかと尋ねると、「穏やかだった」とのことでした。後援会(保護者会)でも生徒間のトラブルはほとんど話題にならず、共学になったからなのか、時代が穏やかになったのか、よくわかりません。

一方、年間スケジュールにおける座学外の活動の重視は変わらない附設の特徴だと思います。体育祭、文化祭を始め様々な学校行事で男女一緒に活躍する機会があり、もはや男子校の面影はありませんでした(写真3)。友人関係も時代に即して健全に育まれるのだらうと思います。

卒後、附設生を意識すること

卒業後、九州大学医学部に進学し比較的狭い世界で生きてきました。近年では九州大学医学部定員100名のうち20名以上を附設生が占めており、現役教職員にも多数の附設生が在籍しており、附設生の為他の精神を信頼して心地よく働いています。九州大学に限らず長い友人の多くは附設生であることは確かです。今後も同窓生を意識していくのだらうと思っています。ゆりは東京大学に進学しましたが、COVID-19流行の影響を受けキャンパスへの通学もままならない大学生活を過ごしています。中でも附設の同級生とは附設生同士の信頼感があるのか、新しい友達よりもよく会っているようです。附設の人脈が社会人になった附設女子の活躍にも繋がるよう、同窓の皆様のご支援も期待しています。

終わりに

娘のゆりが附設に進学した当初は共学化の新しい部分に注目していましたが、先生と生徒が作る附設には変わらない部分が多いと思いました。狭い世界でゆりの在学中には何かしらプレッシャーが掛かったのではないかと今更ながら心配しましたが、立派な附設女子に成長しているようですので、学校の先生方と附設生の皆様にはとても感謝しています。



(写真2)2013年、私も担任いただいた
松崎文雄先生が娘の副担任に



(写真3)2017年、ゆり(左上)
文化祭の書道パフォーマンス

定期総会報告

副会長 古賀善彦 (23回生)

定期総会のご報告をいたします。

昨年度及び今年度の重要事項としては、2020年度のコロナ禍と広告協賛金・一般会計から教育振興基金への寄付といったことがあります。同窓会HP(基金への寄付)、母校HP、大学広報誌、昨年12月発行の会報には寄付のお願い、広告協賛金のお礼などを記載いたしました。こうした活動を踏まえ今年度の定期総会を開催いたしました。

今年度総会は、例年と異なりコロナ禍の影響で、同窓会会員の安全と健康を考えて、ZOOMによる総会としました。

◆令和3年度の定期総会

1. 日時 令和3年7月18日(日) 午前11時半～12時半
(理事評議員会(ZOOMによる会議)の開催後)

2. 場所 Zoomによるオンライン開催

3. 令和3年度定期総会議事次第

3-1 例年通り、物故者 黙祷、議長指名、議事録署名人指名の後、会長が挨拶を行ないました。

3-2 会長挨拶

ご出席の皆様、こんにちは、同窓会会長、23回生の吉田清隆です。

同窓会会員の皆様には東京オリンピック開催直前のあわただしい中、時間を割いていただき大変ありがとうございます。

本日10:30からの理事評議員会にてご承認いただいた議案を定期総会に上程させていただきますので、ご審議の程、よろしくお願ひします。

まずは最初に、昨年春からのコロナ・パンデミックに対して、附設卒業生に数多い医療従事者の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

同窓会も制限を受けた中での活動となり、福岡、東京をはじめとした全国の支部総会・懇親会や新人歓迎会も中止、あるいはオンライン形式での開催となりました。

同窓会のタテ・ヨコのつながりが高まる中、水を差されたようで残念でなりません。

就職セミナーや回生代表世話人会などは、ご担当諸氏の尽力により、オンラインですが実りある活動ができたようで、胸をなでおろしているところです。

附設高校も、昨年春は一時閉校に始まり、開校に際しては時差通学用の臨時バスの運行や、オンライン授業用のタブレット端末配備など大きな出費が必要となりました。

それを受け町田校長から、同窓会や卒業生や保護者の寄付により積み立てられている教育振興基金の一部を取り崩し、コロナ対策費用を賄いたいとの申し出を受け、同窓会は運営委員の1人として快諾いたしました。

更に同窓会として、母校に財政的な支援をすべく、福岡・東京の支部総会パンフレットや同窓会報の発行に頂戴した広告協賛金、および一般会計から母校に寄付することを支部総会幹事団と一緒に機関決定し、合計で706万円を教育振興基金に寄付することができました。

詳細は同窓会ホームページの通りで、皆さまにお知らせし、記録に残すために寄付金目録の贈呈式を行いました。

コロナ禍の続く今年度も同様に母校支援650万円を予算計上しましたので、皆さまのご理解を賜りたいと存じます。

令和2年度決算は、会報発行や基金への寄付などを除き、特筆すべき事業はできませんでした。

令和3年度はコロナが落ち着くことを期待し、例年に近い活動予算を組んではおりますが、基本的考え方は前年度同様です。

執行部役員交代はなく、一部の理事・評議員の交代に留まります。

私自身、会長就任後、全国支部の皆さんと一度も対面のご挨拶もできずに1年間が過ぎようとしており、コロナが早く収まり、お会いできる日を待ち望んでいる次第です。

14時から福岡支部総会も開催されますので、引き続きのご参加をお願いします。

以上にて挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

3-3 会長挨拶の後、以下の議案が審議、承認されました。

(1) 令和2年度活動報告

中村和徳副会長(27回生)より報告が行われました。

(2) 令和2年度決算の件

田中英治副会長(23回生)より決算説明があり、吉田会長から補足説明がありました。

一瀬徹夫監事(13回生)より監査報告が行われ、承認されました。

(3) 令和3年度予算の件

田中英治副会長(23回生)より予算案の説明があり、承認されました。

(4) 役員の変更

古賀善彦副会長(23回生)より新たな理事の就任について説明があり、承認されました。

新任：西芳寛(30回生、熊本支部)

(5) その他

- 1 井手和英顧問(8回生)と一瀬徹夫監事(13回生)から、コロナ禍により経済的に苦しんでいる生徒がいるなら同窓会として手を差し伸べてはどうかとの意見をいただきました。

*これを受け、後日、母校にて本件に関する調査の結果、幸い対象者はいないとのことでした。

- 2 銀行振り込み先の拡大是非について説明し、現状を継続することにてご理解を得ました。

- 3 WEB名簿充実化のお願いをいたしました。未登録の方々のご協力をお願いします。お問合せは同窓会事務局まで

電話：0942-44-2222

Eメール：jimukyoku@fusetu-dosokai.com

- 4 終身会費納入のお願いをいたしました。同窓会財政の健全化にむけ、未納の方々にはご協力をお願いいたします。お問合せは同窓会事務局まで(同上)。以上

令和2年度 活動報告

副会長 中村和徳 (27回生)

本部活動

- 4月18日 拡大正副会長会議(テレビ会議方式)
- 6月6日 拡大正副会長会議(テレビ会議方式)
- 7月18日 拡大正副会長会議(テレビ会議方式)
- 9月26日 附設高校理事評議委員会、附設高校同窓会定期総会
拡大正副会長会議(於久留米シティプラザ)
- 10月10日 正副会長会議(テレビ会議方式)
- 10月17日 在校生のための進路講座(附設高校で開催)
- 11月26日 吉田清隆同窓会会長母校、久留米大学表敬訪問
- 12月12日 拡大正副会長会議
(オンライン会議及びテレビ会議方式)
- 1月23日 拡大正副会長会議
(オンライン会議及びテレビ会議方式)
- 2月10日 寄付金目録贈呈式(広告協賛金)(附設高校にて)
- 3月20日 拡大正副会長会議(オンライン会議)
広告募集制度委員会(オンライン会議)
- 3月26日 久留米大学評議委員会に高橋顧問出席
- (4月7日 附設高校入学式出席、寄付金目録贈呈式)

(5月28日 久留米大学評議委員会に高橋顧問出席
(ハイブリッド開催))

(7月11日 教育振興基金運営委員会書面決議
(令和2年度決算令和3年度計画))

各支部・OB会関連行事

- 7月11日 東京支部回生代表世話人会(オンライン会議)
- 7月26日 有薫高校対抗ゴルフ
- 10月10日 東京支部総会(オンライン会議)
- 10月27日 東京支部次回幹事会キックオフ懇親会
- 12月12日 東京支部回生代表世話人会(オンライン会議)
東京支部就職支援セミナー(オンライン会議)
福岡支部回生代表世話人会(テレビ会議方式)
- 2月13日 東京支部就職支援セミナー(オンライン会議)
- 2月23日 有薫高校対抗ゴルフ(附設高校優勝)
- 3月15日 熊本支部卒業生祝賀会・新入生歓迎会
(ホテル日航熊本にて、ハイブリッド開催)

令和2年度 一般会計収支決算書

副会長 田中英治 (23回生)
(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(円)

費目	予算額	決算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	816,000	816,000	0	4,000円×204名
会費(年会費)	3,636,000	3,627,000	△9,000	500円×603名×12ヶ月、500円×1名×9ヶ月、500円×1名×7ヶ月、500円×1名×2ヶ月
終身会費新制度分	5,731,200	5,716,800	△14,400	800円×603名×12ヶ月、800円×1名×9ヶ月、800円×1名×7ヶ月、800円×1名×2ヶ月、△返還800円×108ヶ月(前年度転退学者6名分)
終身会費過年度分	300,000	240,000	△60,000	
広告料収入	0	6,604,000	6,604,000	
雑収入	0	316	316	
当期収入合計	10,483,200	17,004,116	6,520,916	
〔支出の部〕				
1. 事務費	1,970,000	1,811,988	△158,012	
事務消耗品	10,000	1,966	△8,034	
事務備品費	30,000	0	△30,000	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
同窓会本部予備費	150,000	66,822	△83,178	
東京事務所費	600,000	608,400	8,400	東京事務所賃借料
通信費	100,000	83,657	△16,343	インターネット利用料、Zoomアカウント利用料、切手他
印刷費	50,000	28,490	△21,510	69回生会員カード、名刺
事務雑費	30,000	22,653	△7,347	
2. 事業費	7,206,880	6,868,972	△337,908	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	500,000	290,124	△209,876	
正副会長会議	150,000	58,352	△91,648	
総会関連支援費	100,000	0	△100,000	
支部総会関連(旅費)	100,000	0	△100,000	
(寸志)	180,000	0	△180,000	
支部支援費	0	1,042,000	1,042,000	福岡・東京支部各500,000円、熊本支部18,000円、中四国支部24,000円
回生世話人会議	500,000	114,015	△385,985	
役員活動費	150,000	228,396	78,396	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	150,000	120,450	△29,550	体育祭援助
部活援助費	390,000	210,000	△180,000	サッカー部30,000円、柔道部30,000円、合唱部30,000円、美術部30,000円、軟式野球部30,000円、演劇部30,000円、バスケット部30,000円
卒業記念品代	360,000	356,290	△3,710	ペーパーウェイト205個
進路指導費	500,000	124,000	△376,000	卒業生模擬試験経費援助
新人歓迎会補助	200,000	0	△200,000	
就職セミナー費用	300,000	0	△300,000	
校外活動援助費	0	0	0	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	626,880	633,600	6,720	会員管理システム・ホームページ管理料等
会報	2,800,000	3,555,862	755,862	会報誌(9,900部)の作成代、CPP袋印刷、発送料を含む
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	定期預金にて積立中
慶弔費	50,000	8,448	△41,552	
事業費雑費	50,000	27,435	△22,565	
3. 予備費	1,000,000	0	△1,000,000	
3.2 母校支援費	2,000,000	7,062,000	5,062,000	①5,062,000円(広告協賛金より) ②2,000,000円(一般会計より)
当期支出合計	12,176,880	15,742,960	3,566,080	
当期収支差額	△1,693,680	1,261,156	2,954,836	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△300,000	△240,000	60,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	5,734,347	5,734,347	0	
次年度繰越金	3,740,667	6,755,503	3,014,836	

在籍数／	1年	206名	入会金なし2名	1月より転学1名
	2年	198名	6月より退学1名	11月より転学1名
	3年	204名	会費なし2名	
合計		608名		

財産目録

普通預金(福岡銀行 久留米営業部)	6,753,529円
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	1,974円(下記定期預金の利息累計)
小計	6,755,503円(※補記1 当該金額が次年度繰越金と一致)
普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	0円
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	2,900,000円(引当金累計)(※補記2 思考廻廊関連900千円、名簿発行関連2,000千円)
合計	9,655,503円

令和2年度 特別会計収支決算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

〔収入の部〕	(円)	〔支出の部〕	(円)	財産目録	
前年度繰越金	180,039,707	貸金庫使用料	26,400	普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	4,181,303円
一般会計より繰入	(30,000円×8名) 240,000	次年度繰越金	180,279,455	定期預金(筑邦銀行 本店営業部)	156,074,064円
雑収入	26,148			定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	20,024,088円
計	180,305,855	計	180,305,855	計	180,279,455円

終身会費納入状況

2021年3月31日現在

回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率
1	60	101名 59%	17	59	195名 30%	33	177	209名 85%	49	152	201名 76%
2	80	141名 57%	18	59	195名 30%	34	185	217名 85%	50	135	200名 68%
3	67	135名 50%	19	74	205名 36%	35	158	209名 76%	51	157	202名 78%
4	75	153名 49%	20	54	209名 26%	36	176 (1)	209名 84%	52	145	203名 71%
5	63	159名 40%	21	75	211名 36%	37	160	199名 80%	53	163	199名 82%
6	66	159名 42%	22	79	229名 34%	38	156 (2)	210名 74%	54	147	204名 72%
7	93	162名 57%	23	63 (1)	183名 34%	39	167 (1)	202名 83%	55	136	197名 69%
8	84	171名 49%	24	73	214名 34%	40	123	201名 61%	56	139	205名 68%
9	62 (1)	149名 42%	25	100 (1)	220名 45%	41	88	205名 43%	57	144	199名 72%
10	76	150名 51%	26	166	223名 74%	42	107	206名 52%	58	147	198名 74%
11	63	159名 40%	27	156	201名 78%	43	109	208名 52%	59	149	210名 71%
12	59	154名 38%	28	173	217名 80%	44	117	197名 59%	60	131	199名 66%
13	75	165名 45%	29	160	215名 74%	45	132	194名 68%	61	152	201名 76%
14	54	145名 37%	30	177	212名 83%	46	128	195名 66%	62	139	203名 68%
15	52	161名 32%	31	159	217名 73%	47	119	194名 61%	63	141	199名 71%
16	58	208名 28%	32	174	224名 78%	48	135	197名 69%	64	133 (1)	200名 67%

※なお65回生以降は、全員完納会員です。

同窓会終身会費 会計報告	完納会員(3万円) 7,373(8)名	分納会員(2万円) 10(0)名	分納会員(1万円) 52(0)名
-----------------	------------------------	---------------------	---------------------

令和2年度決算、令和3年度予算に関する補足説明

1. 【一般会計】

●令和2年度決算

「総額主義の原則」に則って決算をするべきとの指摘を監事から受け、「広告料収入」を配分された金額だけではなく全額を本部の収入として計上し、そこから従来の配分率に応じて「支部支援費」(新設)として各支部に振り分けた。

したがって収入については、一般会計のグロスが増大したように見えるが広告料収入を除くとほぼ予算通りの決算となっている。

経費に関しては、新型コロナウイルス禍により多くの定期的事業が縮小・休止となったため保守的な当初予算よりもさらに縮小した。

そのため、2年度予算は当初コロナ禍の母校支援

費を計上した赤字予算であったが、結果黒字となっている。

●令和3年度予算

昨年度に引き続きコロナ禍を考慮し保守的な予算となった。しかしながら今年度も母校のコロナ対策の一助となるべく6,500,000円の「母校支援費」を計上して、これは昨年度同様「附設高等学校・中学校教育振興基金」に寄付される。

これに伴い、1,858,800円のマイナスでの予算となった。

2. 【特別会計】

特別会計へは一般会計の「終身会費過年度分」の収入が振り替えられている。「終身会費過年度

分」とは旧制度(64回生以前の同窓生が対象)の終身会費のこと。しかし、この制度の存在を知らない同窓生もかなりの数に上ると思われ納入状況が低迷している。制度を周知徹底することと各回生同士での声かけが肝要と思われる。

令和3年度 一般会計収支予算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(円)

費目	令和2年度決算	令和3年予算	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	816,000	844,000	28,000	4,000円×211
会費(年会費)	3,627,000	3,636,000	9,000	500円×606×12
終身会費新制度分	5,716,800	5,678,400	△38,400	800円×606×12-800円×174
終身会費旧制度分	240,000	210,000	△30,000	
広告料収入	6,604,000	6,000,000	△604,000	
寄付金		0	0	
雑収入	316	0	△316	
当期収入合計	17,004,116	16,368,400	△635,716	
〔支出の部〕				
1. 事務費	1,811,988	1,887,200	75,212	
事務消耗品	1,966	10,000	8,034	
事務備品費	0	0	0	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担
同窓会本部予備費	66,822	100,000	33,178	
東京事務所費	608,400	607,200	△1,200	東京事務所賃借費
通信費	83,657	110,000	26,343	インターネット・ZOOM・切手等
印刷費	28,490	30,000	1,510	卒業生に交付するIDカード等
事務雑費	22,653	30,000	7,347	
2. 事業費	6,868,972	8,630,000	1,761,028	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	290,124	400,000	109,876	旅費等
正副会長会議費	58,352	150,000	91,648	
総会関連支援費	0	100,000	100,000	
支部総会関連(旅費等)	0	100,000	100,000	
(寸志)	0	180,000	180,000	
支部支援費	1,042,000	1,000,000	△42,000	
回生世話人会議費	114,015	300,000	185,985	
役員活動費	228,396	250,000	21,604	旅費等
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	120,450	450,000	329,550	男く祭・体育祭
部活援助費	210,000	390,000	180,000	
卒業記念品代	356,290	360,000	3,710	ペーパーウェイト
進路指導費	124,000	350,000	226,000	卒業生向け模試・激励会
新人歓迎会補助	0	0	0	
就職セミナー費用	0	150,000	150,000	
校外活動援助費	0	0	0	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理費	633,600	650,000	16,400	
会報	3,555,862	3,600,000	44,138	印刷費・発送費
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶弔費	8,448	50,000	41,552	
事業費雑費	27,435	50,000	22,565	
3. 予備費	0	1,000,000	1,000,000	
3.2 母校支援費	7,062,000	6,500,000	△562,000	
当期支出合計	15,742,960	18,017,200	2,274,240	
当期収支差額	1,261,156	△1,648,800	△2,909,956	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△240,000	△210,000	30,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	5,734,347	6,755,503	1,021,156	
次年度繰越金	6,755,503	4,896,703	△1,858,800	

コロナ禍の 附設生を守るため

久留米大学附設高等学校・中学校は新型コロナウイルスから生徒たちを守るために、JR久留米駅と西鉄久留米駅からの臨時バス運行・生徒用LTEタブレット配布・食堂用アクリル板設置等の対策を令和2年度に実施しています。そのための費用総額の約1300万円は教育振興基金から全額拠出されています。

教育振興基金とは母校の教育環境の整備及び財政基盤の充実を目的とし、校長(運営委員長)・同窓会長・後援会長・久留米大学理事長・久留米大学学長・久留米大学財務担当理事の6名を運営委員として組織され、同窓会・後援会・保護者等の寄付金の蓄積により平成13年より運営されています。

母校支援費は教育振興基金へ!!

同窓会は、令和2年度一般会計決算書に記載している通り7,062,000円を母校支援費として附設高等学校・中学校教育振興基金へ寄付いたしました。

令和2年度の寄付として2月10日に5,062,000円(1月27日振込)の、同じく4月7日に2,000,000円(3月24日振込)の目録贈呈式を母校にて行いました。

令和3年度も緊急事態宣言期間中の臨時バスのチャーター費用・教室や食堂等の空気清浄機・紫外線照射装置・図書館受付飛散防止対策工事等で1000万円超の対策費が見込まれています。

同窓会としては昨年に引き続き650万円の予算を計上して母校の支援を続けていく方針です。

久留米大学附設高等学校同窓会 令和2年・3年度役員名簿

役職名	支部名	回生	氏名
顧問			
1	福岡	8	井手和英
2	福岡	10	古賀暉人
3	福岡	13	長谷川房生
4	東京	19	高橋友作
会長			
	東京	23	吉田清隆
副会長			
1	東京	21	砂場泰浩
2	福岡	23	古賀善彦
3	福岡	23	田中英治
4	福岡	25	島添隆雄
5	東京	27	中村和徳
6	東京	33	勝連治
理事			
1	山口	10	原好弘
2	中部	14	安井健三
3	中四国	16	近藤治幸
4	東京	19	小田恵介
5	福岡	19	天本敬吾
6	大分	19	藤原公司郎
7	北海道	20	檀浦龍二郎
8	福岡	20	橋本和幸
9	東京	20	安部政信
10	東京	21	栗木康幸
11	関西	21	甲斐田郁夫
12	福岡	22	松雪恵津男
13	東京	22	中村尚昭
14	佐賀	22	志田正典
15	福岡	26	実藤光二郎
16	東京	26	原田稔
17	東京	28	高木裕康
18	熊本	30	西芳寛
19	長崎	32	山縣雅義
20	福岡	34	秋本丈司
21	校内	41	坂田真一
22	校内	49	伊藤省吾
監事			
1	福岡	13	一瀬徹夫
2	福岡	25	矢加部浩一
支部長			
1	山口	10	原好弘
2	中部	14	安井健三
3	熊本	16	川崎博
4	中四国	16	近藤治幸
5	大分	19	藤原公司郎
6	北海道	20	檀浦龍二郎
7	関西	21	甲斐田郁夫
8	東京	21	栗木康幸
9	佐賀	22	志田正典
10	長崎	24	安武亨
11	福岡	26	実藤光二郎

役職名	支部名	回生	氏名
評議員			
1	福岡	1	隈正之輔
2	福岡	3	安恒好太郎
3	福岡	4	丸林茂夫
4	福岡	8	中村晃
5	福岡	11	重永征廣
6	福岡	13	宮本祐一
7	福岡	15	平田三郎
8	福岡	16	中野博
9	山口	16	小野康行
10	福岡	17	武田由照
11	福岡	18	村岡和彦
12	福岡	19	横山晴明
13	東京	20	山下喜弘
14	関西	20	山本伸一
15	北海道	20	西見寿博
16	福岡	21	小林隆利
17	福岡	21	林公彦
18	関西	21	横山俊祐
19	福岡	22	山口博徳
20	福岡	25	宮原信孝
21	福岡	25	川口武壽
22	福岡	25	山口佳秀
23	福岡	26	藤田幸也
24	福岡	27	執行謙二
25	福岡	27	佐々木郁夫
26	福岡	28	吉本幸治
27	中四国	28	田代明彦
28	福岡	29	森明彦
29	東京	29	日高雄三郎
30	中部	29	荒巻卓博
31	福岡	30	尾籠博光
32	東京	30	坂本格
33	福岡	31	森田昇
34	佐賀	31	小林元太
35	福岡	34	永田八栄
36	佐賀	34	中里栄介
37	長崎	34	松藤祐次郎
38	東京	35	高尾野健
39	東京	36	飯沼良介
40	福岡	39	古賀篤
41	福岡	41	川野武志
42	福岡	42	楠田大蔵
43	東京	43	深野章
44	福岡	45	橋本道成
45	中四国	45	関太一
46	東京	47	浅枝謙太
47	東京	47	中嶋雅宏
48	東京	50	山口雅彦
49	東京	51	大津良太
50	東京	51	福島智史
51	東京	57	竹下知宏
52	東京	59	尾家杏奈
53	東京	60	岩崎里子
54	関西	61	佐伯洋輔
55	関西	64	廣田律

(敬称略)

回生代表世話人

福岡支部回生代表世話人						
回生	氏名					
1						
2	石橋	義昭	中村	幸孝		
3	安恒	好太郎	大場	清隆		
4	日野	俊二	中村	和正		
5	関	順治	高木	俊夫		
6	野田	尚一	小吹	大学		
7	松本	保正	柿原	大兼	鶴史雄	
8	近藤	英喜	永野	盛吉		
9	城戸	英喜	永野	盛吉		
10	橋本	克己	中島	正利		
11	今里	克己	重野	征廣		
12	大塚	哲也	梅野	正裕		
13	荒尾	清也	小上	江修		
14	大藪	誠二	古澤	敏生		
15	福井	英哲	朗福	山明		
16	中河	原務	福山			
17	赤司	和彦				
18	村岡	山晴	明幸	武藤	浩生	
19	横橋	本和	元史	高島	光弘	
20	橋本	一瀬	司彦	松野	惠津男	
21	古田	善章	人			
22	古小	山口	佳秀	矢加部	浩一	
23	山実	藤光	二郎	新里	祐一	
24	佐々	木郁	夫高	岸智	也彦	
25	江猪	頭銅	秀隆	岡嶋	和雅	
26	30	佐藤	茂古	竹下	政敏	
27	31	森田	昇敬	東邊	晃一	
28	32	坂田	源一郎	渡田	八栄	
29	33	枝本	秋本	司宏		
30	34	津福	真崎	義憲		
31	35	平野	富時	憲嗣		
32	36	兼行	川野	孝志	富田	大昌
33	37	中島	陣内	幸史	将池	田吉
34	38	44	本江	慎太郎	花橋	吉本
35	39	45	岡本	正樹	小原	尚利
36	40	46	出熊	谷善	昭興	山口
37	41	47	北森	島山	裕司	
38	42	48	熊丸	植高	貴亮	
39	43	49	千代	田明	久志	池辺
40	50	51	佐藤	橋本	孝智	之雄
41	52	52	井上	大澤	めみ	嶋田
42	53	53	足達	山下	咲華	中島
43	54	54	山小	島尚	村上	龍之介
44	55	55	60	笹栗	誠田	中雄士
45	56	56	61	62	63	64
46	57	57	65	66	66	67
47	58	58	66	67		

東京支部回生代表世話人						
回生	氏名					
1						
2	加藤	勝文	一郡	透		
3	野田	昌憲	佐々木	進		
4	柳					
5						
6	鹿毛	剛之	山ノ内	盛光		
7	武藤	正克	之大	石弘		
8	井樋	英東	戸澤	眞也		
9	星野	伯信	雄稲	昌秀		
10	佐伯	敏郎	橋本	雄二		
11	小林	寿夫	阿志賀	雄二		
12	柳山					
13	久保田	宙生				
14	楠田					
15						
16						
17	中藏	祥一	安宮	永裕	相幸	
18	國友	秀世	高橋	友作	小田	惠介
19	安部	政信				
20	渡辺	恵治	孫松	村太	吉栗	康幸
21	中村	尚昭	都持	合松	和寛	板垣
22	吉田	賢司	齊藤	原彰	考明	豪雄
23	田中	浩一	篠古	橋宏	古川	幸稔
24	原田	和裕	德上	羅賀	秀智	文格
25	中村	高裕	三郎	信也	大村	和正
26	高日	澤達	誠修	造佐	藤開	一章
27	唐北	島内	山修	大吉	阿部	高士
28	30	31	32	33	34	35
29	36	36	37	38	39	40
30	41	41	42	43	44	45
31	46	46	47	48	49	50
32	51	51	52	53	54	55
33	56	56	57	58	59	60
34	61	61	62	63	64	65
35	66	66	67			

福岡支部職域代表世話人	
福岡市役所	
33回生	本村和也
九州電力	
37回生	平野長暁
西日本鉄道	
36回生	上野潔
福岡県庁	
38回生	豊村謙治
福岡銀行	
45回生	小澄洋光

東京支部職域代表世話人	
霞が関等附設芙蓉会	
21回生	青沼隆之

(敬称略)

コロナ禍における若手(学生) 同窓会活動の現状とこれから

大津良太 (51回生)

東京支部 副支部長

2009年に故・長縄雅夫先輩(14回生)より「やれ！」と言われて以来、十数年間、同窓会東京支部における『若手』活動のサポートをさせていただいております。

まずはどのような活動をしているか簡単に紹介させていただきます。

① 新人歓迎会：例年6月

大学一年生が歓迎の対象者、前年に歓迎された大学二年生の代表が幹事役として実施しています。

東京に出てきた新人と一年上の先輩、そして同窓会の役員メンバーを繋ぎ、東京支部の全体の活動の共有や、支部総会の案内をしています。

② 就職支援セミナー：その年のトレンドに合わせ年間2～3回実施

東京支部を代表するコンテンツ。(と自負しております)

主に大学三年生、院一年生を対象に、支部の若手(20代、30代)と内定者＝前年度就職支援セミナー参加者(大学四年生、院二年生)が新卒就職活動におけるアドバイスを実施しています。

例年、学生たちが毎年どこかで同窓会活動に関われるよう工夫をしながら支部活動を実施して参りました。やはりコロナ禍での活動は大変でしたが、事務局一丸となり実施しましたので、ご報告させていただきます。

今年度の新人歓迎会は、例年飲食を伴い実施をしていたため、当然実施できず、代替案に関しても今のところ最適なものが見つかっておりません。回生世話人を通し、学生の状況をヒアリングすることしかできておりません。今後の課題となっております。ナイスアイデア、募集しております。

一方で就職セミナーは、オンライン開催となりましたが、その特性を生かし、例年同様、もしくはそれ以上の内容となりました。

例年に比べ、東京以外の大学に在籍する学生の参加人数、附設ファミリーの参加人数ともに増加し、非常に活発な議論がなされました。また、ブレイクアウトセッションを活用することで、より丁寧に個人と会話ができたと感じます。アフターフォローに関しても、場所時間の制約が少なくなり、個別のOB訪問や面接対策など例年と比べ学生からの要望も多く、また事務局としても対応できたことは大きな収穫となりました。附設生はもちろん、附設ファミリーからも『嬉しい声』がたくさん届いています。

私自身は就職で東京に出てきましたが、附設の同級生、そして同窓会で出会った先輩や後輩に様々な場面で助けて頂き、今があります。(実際は、東京に出てくる前の就職活動の時から……)

修羅道の世を救うことはなかなかハードルが高いですが、修羅道の世でも、コロナ禍でも、『附設生らしい』活動ができるよう、今後も努めて参ります。

最後になりましたが、この一年も、竹下くん(57回生)、坂井くん(57回生)、中田くん(58回生)、片峯くん(58回生)、橋本くん(61回生)、阿比留くん(62回生)、圓山くん(62回生)、内定者の黒川くん(63回生)をはじめたくさんの方のご協力で東京支部若手の活動を充実した活動にすることができました。ご尽力いただき、ありがとうございます。来年もよろしくお祈りします(笑)

そして、一緒に活動をしてくださる方がいれば、是非ご連絡ください!(楽しいですよ)

令和2年度 進路講座感想集

2020.10.17(土)実施



橋詰 洋

先生 (高校31回生/株式会社福岡銀行 執行役員融資統括部長)

第1講座 企業・金融

銀行の仕事

講義の感想

私は将来なりたい職業の選択肢として銀行員のまさに融資に関する職を考えています。ですが職に就くまでのビジョンが見えず、これからどうして良いのか悩んでいるところです。今回私がやってみたい職業について貴重なお話を聞くことが出来て、また更にやってみたく思いました。また銀行はお金の借入れや融資を行う所だと思っていましたが、融資先の会社のサポートや新しい事業も行われていると聞いて驚きました。特にITについての事業は詳しく知りたいと思いました。お話の最後に先生が融資の際に大切にしていることとしておっしゃっていた、「嘘をついてないか、従業員のことを思っているかを見極める」という

まだ身近でないような気がしていた金融ですが、将来、資金が必要になったりローンを組んだり金融とかわかる場面はたくさんあります。今回、業務は預金ぐらいしか知らなかった銀行のことについて詳しく知ることができました。銀行や行う融資にいろいろなタイプがあることや、銀行の中でどのような部門があるかなど普段あまり耳にすることのないことを知ることができて大変勉強になり面白かったです。特に印象に残ったのは、橋詰さんの仕事に対する姿勢です。昨今の情勢により地方銀行が厳しい状況にある中、融資を必要とするお客様や会社のことを第一に考えると同時

私がこの講座を選んだのは私の母が元々銀行員だったからです。今でもよく私に銀行員時代のことを話してくれるので、銀行について知りたいと思っていました。私にとって銀行とは、ただお金を引き出したり預けたりする場所でした。しかし、銀行は金融を取り扱う身近なもので、まさに「社会のインフラ」なのだと分かりました。また、例えば会社の社長にお金を貸すことになったとき、その社長がどれほど会社の将来や社員のことを考えているか、嘘はついていないかなど

銀行員というものはもっと厳しく、冷たい仕事だと思っていた。相手の経営が悪くなって返せない、では



のは私たちの日常生活を送る上で信頼してもらうには大切なことだと思うので私も大切にしようと思いません。今回はなりたいと思っている職業の方からリアルなお話を聞くことができ嬉しかったです。ありがとうございました。

文責：高1B32番 松本 花音

に、銀行がリスクを負いすぎないようにすることは難しいことですが、地方銀行の使命は地方経済を守ることであるという志をもって誠実に取り組まれている様子を見て、自分もそういう姿勢で働けるようになりたいと思いました。また、お話の中で、時間ある学生のうちに勉学のみならず、部活やバイトなどに取り組んで見識を広げたり、将来なりたい職業に必要な資格を取得したりすることが武器になるとおっしゃっていたので、いろいろなことに努力しようと思います。

文責：高1D28番 平野 環

を見て判断せねばならないと分かりました。これは銀行でなくても言えると思います。どんなに緊張する場面でも真心を持って誠心誠意接することが社会に出る上で一番大切だと思いました。私はまだ自分の将来を漠然としか考えていませんが、残りの附設生活2年半くらいで何か夢中になれるもの、わくわくするものを見つけられたらと思います。先生のお話は本当に面白かったです。ありがとうございました。

文責：高1E07番 小川恵里香

なく相手の経営が悪くならないように共に立て直す。立ち直りやすくするために借金の額を減らす。こんな

にも銀行員が相手に寄り添うすてきな仕事だとは思っていませんでした。しかし、優しさだけではやっていけない。相手の会社のリストラやいろんな方針に口を出すこともあるとおっしゃっていて、この仕事の厳しさも垣間見えた。また、先生は高校生の私達にでも丁寧なお言葉をお使いくださっていた。どんな人へでも敬意を忘れないその姿勢に尊敬の念を抱いた。仕事内容に

お客様のランクを付けることとあり、そんなこともするのか！と驚いた。しかし先生のお客様に深い敬意を払う姿勢を拝見し、敬意と仕事内容は別なのだと実感した。興味があったがブラックボックスであった銀行員の仕事を具体的に知り、非常に有意義な講義だった。ありがとうございました。

文責：高1E29番 瀧田 桃実



4. これからの金融（銀行？）
- コンサルティング会社
 - システム会社
 - 金融仲介会社
 - BaaS（Banking as a Service）
 - デジタル通貨（CBDC：Central Bank Digital Currency）
 - SDGs/ESG（Sustainable Development Goals / Environment Social Governance）

大村和範

先生（高校31回生／バイエルクロップサイエンス株式会社 防府工場長）

第2講座 企業・化学

好き、得意な仕事を“選ぼう”

講義の感想

今回の講座を聞いて、私は主に2つのことを学びました。1つ目は、仕事に就くということについてです。どんな仕事にも就ける機会が与えられていますが、職業選択には自分の興味や特技、希望などを基準とし、周囲のすすめなど、他人に流されてはいけないと再認識しました。なぜなら、自分の興味がある仕事や、趣味を可能にする仕事に就くことは圧倒的に自分にメリットとなり、自分の興味がある仕事や趣味を可能にする仕事に就くことの重要性が分かったからです。2つ目は、日本企業と多国籍企業とは様々な点で違っていることです。多国籍企業では国籍が関係なく、部門別に、かつ国際的に会社を動かすことが



出来るほか、日本よりも女性の社会進出が進んでいることが分かりました。今回学んだことを生かして、将来、仕事を選ぶときには、自分の興味のある仕事だけでなく多国籍企業も視野に入れていきたいと思えます。

文責：高1A32番 原田 慈晃

私は先生の話聞くまで外資系というものが全く理解できてなかったことに気がついた。お話を聞いて当然のことながら、日本の企業では当たり前のことが外資系の会社では当たり前ではない事を実感した。また、外資系の企業ではコロナが流行する前からリモートでの業務が行われていたということを知っていた

が、とても効率的で日本の企業も早く取り入れるべきだったんだろうなとも思ったし、外資に務めているからこそ最後の方の“時間を無駄にするべきではない。効率的に働くことが大事。”という言葉が出てきたんだろうし日々実感されているんだと感じた。また、私は上司や部下が同じ職場に居ないのは不便だと感じた

が、それは日本の企業が当たり前だと思ってるからだし、所詮慣れなのだろうとも思った。一方、大村先生の上司も部下も女性が多く、組織全体を見たとしても女性が多いというのはとても驚いた。どうしても女性

の昇進や活躍が難しい日本企業と比べてみて、そういう点でも外資系は視野に入れてみようと思った。

文責：高1D17番 佐藤 由季

大村先生のお話を聞いて、外国人の方と一緒に働くには色々な配慮が必要で大変そうだと感じると同時に、とても楽しそうだと思います。そして、日本はまだ女性が働きにくい国だな、とも思いました。将来について考えた時、自分が就きたい職業、仕事を選ぶ基準などまだ分からないことが多々あり不安になることもあったからか、なかでも特に「努力や時代で変化する待遇や社会的地位よりも、興味や特技を優先して仕事を選ぶ方がよい」という先生の言葉が心に残りま

した。そして、それを実践できるように自分の興味をより深め、今のうちからできることはやりたいと思いました。まだ具体的な将来の夢は決まっていなくて様々な国の人と関わりたいので、日常的に英語に触れるなど先生が挙げられたことも実行したいです。丁度、九大の留学生の交流会に誘われたので参加します。これからは様々なことに取り組んで将来の幅を広げたいです。有難うございました。

文責：高1D37番 八尋 美月

外資系企業について詳しく知る人は少ないだろう。私も、ただ英語力をはじめとした様々な能力が必要とされるところだと漠然と考えていた。

先生は、自身が働かされていた会社での経験を交えながら、一言で外資系企業といっても欧米と日本で大きな違いがあることを、表を用いながら教えてくださっ

た。欧米で取り入れられている手法はどれも合理的でかつわかりやすく、日本がどれほど遅れているかははっきりと示していた。最近、コロナウイルスによりホットワードとなった「リモートワーク」も欧米では10年ほど前から既に取り入れられていたそう。その他様々な点でも、欧米企業は日本企業の何年も先を歩いているような気がした。

しかし、日本と欧米のどちらの企業にもいえることとして、私は、企業は働く従業員からも大きく影響されるものだと考える。将来どこかの企業で働くであろう私たちは、仕事は「する」のではなく、「選ぶ」ものだと意識して自身の進路について考えていくべきだと思う。

文責：高1E26番 野瀬菜々子

外国人と上手く働くために

- 相手の文化、宗教、慣習を理解し、好意的な興味を示す
- 差別につながりかねないことに気を使う
- 政治の話題には注意する
- 食事を企画する時には特に注意（アルコール、肉、生魚など）
- 初めての国に行くときは、最低限の挨拶は現地語で行い、マナーを調べておく
- 国際的な習慣：相手の目を見て話す、しっかり握手する
- 積極的に発言し、納得するまで確認する
- 日本の文化、歴史、自分の日常などを英語で説明できるようにする
- 日本食への関心はすごく高い
 - 寿司ネタ、はしの使い方を英語で説明すると感謝される
- 時間を無駄にしない、仕事の効率を上げる

三島伸雄

先生（高校31回生／佐賀大学理工学部 教授）

第3講座 教育・建築

大学では何をするのか、そして大学教員の教育研究とは何か？

講義の感想

三島先生のお話の中で僕が特に心に残ったのは、グローバルな社会で生きろ、というメッセージだ。僕は

外国に行った経験がないためか海外に対する緊張のようなものを持っている。だが、緑豊かなウィーンで建



築を学び、その経験を活かしながら肥前浜宿のような素晴らしいまちづくりをし、更にはそこを国際的な交流の起点として作り上げている三島先生のお話を聞いて、海外への魅力を感じ興味が沸いた。またあまり僕は自分のやりたいことや進路が分かっていないが、まずはチャレンジする気持ちを持って何事にも取り組みたいと思う。正直僕はあまり決断が早い方ではないの

だが、教員になるときの驚くべき決断力を持ち、その結果地域に大きな貢献をなさっている三島先生のように、決断力と探求心、チャレンジ精神を持ってこれからの自分について考え、またそのための大学選びもその大学の方針なども調べた上で考えていきたい。

文責：高1B18番 竹谷日向多

私はもともとまちづくりの分野に興味があり、今回は実際にまちづくりに関わる方の講義を聞くことができ、とても貴重な機会となった。まず、ウィーンと日本では町並みが大きく異なるが、ウィーンでは百年後まで見通してまちづくりが行われていて、人々も街並みについてよく知っているということに驚いた。また、肥前浜宿の歴史的な町並みを再生させる際には、建物のオリジナリティーを調べ、残しながら改修することで、町の魅力が引き出されていることが分かっ

た。町並みは生活に密着していて、そこに住む人々の意識や、観光客数にも良い影響をもたらし、町全体にとって重要なものだと考えた。さらに、大学の分類なども教えて頂き、大学によってどこに力を入れているかが違うので、志望大学を決める際はその大学がどのような位置づけにあるのか、どの分野に強いのかに注意しながら行きたい大学を決め、大学では自分の専門とする分野をつくりたいと思った。

文責：高1B22番 中牟田瑞代

私は小さい頃からいろいろな建造物に興味を持っていたのでこの講座を選んだ。最も強く印象に残っているのは、ヨーロッパと日本の建築物へ意識の違いである。日本では街中の建造物を見て誰が、いつ建てたのか分かる人はほほえない。一方、ヨーロッパでは誰がどのような建造物を建築したのか分かっていることが一種の文化となっている。また、ヨーロッパ、特にウィーンでは、昔から変わらない状態の建造物が数多

く存在しており、今もその機能を十分に果たしている。これはアナログなシステムのお陰であるようだ。『アナログの方がデジタルよりも長持ちする』一見矛盾しているように思える事実に私は驚いた。先生はこの他にも世界を見て自分ができることを考えるグローバル精神も大切だとおっしゃっていた。思いがけない物事が、自分たちの未来を大きく変えていくかもしれないと思うと面白い。

文責：高1C38番 若井 初音

今回の講座で、私が惹かれたのは外国の都市についてだ。特にウィーンと東京における町全体の景観への配慮の有無の差が、それぞれの土地に建築へ関心を向ける文化が根付いているかに起因することや、その文化は教育によって形作られるということが興味深いと感じた。三島先生のお話はウィーンへ留学されていた先生の実体験が土台にあり、実際に様々な都市に関わっ

て現地の人々と交流した方だからこそその知識や発想も多くあったため、面白かった。私は今まで留学したいとは思っていなかったが、先生がウィーンの美しい場所を熱く語るのを聞いてから、私もその場に行って学びたいと思うようになっていく。また、佐賀の都市計画からは温かさが感じられ、町の活性化にはその地元の良さを活かす再生が必要だと気づくことができた。

これからどの進路を選んでも、今回学んだことを大切に、参考にしていきたい。貴重なお話を聞く機会を

いただき、ありがとうございました。

文責：高1D20番 竹田 七菜

廣津洋吉

先生 (高校43回生/ヒロツ法律事務所)

第4講座 司法

弁護士ってどんな仕事？ 法的(論理的)思考力はどうやって身につける？

講義の感想

弁護士は、依頼人と直接対話し、代理人・弁護人として交渉・弁論することによって依頼者を助ける。そのため弁護士には人間的な関わり・対応が求められる。また必要な素質の一つは「法的・論理的思考力」を身につけることである。これは物事を「事実・主張・論拠」に分け、相手の「事実と論拠」に反論することによって構築される。この「法的・論理的思考力」を身に付けるにおいて、「一次情報(自ら見聞きした情報)」を大切にすることは重要であり、日常的にその意識を持つことによって、これらの力を養う事ができる。今回の授業では、上記の弁護士に必要な素質に加えて司法試験の重要性についてもお話して頂いた。弁護士は大学院履修後、司法試験を受け、司法修習の過程を経て「裁判官・検察官・弁護士」の三つの選択から選ばれる。弁護士は唯一公務員ではなく、司法試験受験においても、予備試験コース、法曹



コースなどの種類がある。また受験にあたって法的思考力を培うことは企業・行政など法に関わる仕事に就かずとも役に立つと言う利点がある。

弁護士の仕事は、法的に整理する難しさをもつため将来AIに奪われる事はなく、大変やりがいのあることである上、直接依頼人から感謝される喜びを感じられる仕事である、という2点が廣津先生のお話で最も印象に残った。

文責：高1C24番 西尾 彩里

普段の生活では、法曹三者について知る機会がほとんどなく、三者の違いも表面的なことしかわかりません。この度貴重なお話をしてくださり、実体験によってでしか気づけないことを学生のうちに知れたことに感謝します。法曹三者、とりわけ弁護士は人間理解に基づいて判断をなさっていることが印象的でした。法律とは人の感情的な言動を客観的な事実に戻元してしまうようイメージだったので、あまり親近感がなかったです。しかし先生のお話を伺うことで、事実に戻元

するのではなく、情緒に法的なレッテルをつけることでそれを反映させるものとして認識するようになった気がします。このことも踏まえると、弁護士はまさに人間の営みと法律の橋渡しをしている、本当に優れた人間にしか勤まらない職業だと、改めて感じました。ツールミンモデルや弁護士の心得について分かりやすく教えてくれたことで、より親近感が湧きました。

文責：高1D39番 頼 彦孜

文理選択の時期が近づいているが、私は未だどちらにするか決めかねており、その参考にしようと思い、この講座を選んだ。講師は弁護士の方であり、弁護士は私が小さい頃から憧れていた職業の一つであったので、大変興味深かった。講師の先生は弁護士を志した

理由に始まり、弁護士・裁判官・検察官の仕事の概略、1日のスケジュールなど多くのことを語ってくれた。中でも私が1番印象に残ったのは、なぜ弁護士は犯罪者を弁護するのかという話だった。先生はこの問いに対して、検察と弁護士の両方から光を当てる、す

なわち、様々な視点で真実を見極めるためだとおっしゃった。この答えを聞き、私は弁護士という職業の重要性が改めて分かったと思う。また、講座の中では法的思考力を鍛えるということもやらせていただい

た。普段の授業ではやらないようなことだったので、大変面白かった。この講座を文理選択の参考にしようと思う。

文責：高1E23番 高橋英太郎

弁護士の方に直接お会いしてお話を聞く機会は私自身初めてだったのでとても貴重な経験になりました。弁護士と聞いてまさきに思い浮かぶのは、ドラマの影響なのか、法廷で被告人を弁護するイメージですが、その他にも裁判がない時はどんな仕事をしているのか一日のスケジュールの流れに沿って詳しく説明していただき、弁護士という職業についての解像度が上がりました。講座を受ける前は、司法関係の難しいワードがたくさん出てくるのではと変に身構えていたのですが、事実・主張・論拠を明確に述べる反論の仕

方や、弁護士を目指したきっかけなどを、私たちにも理解できるよう噛み砕かれた例題や高校時代のエピソードを交えて親しみやすく教えてください、とても面白く、興味深かったです。なかでも、優秀だった友人の細かな言い回しの違いについてのお話は、身近なところから職業に直結していくのだなと感じ強く印象に残っています。これからの進路決定にも役立てていきたいと思います。ありがとうございました。

文責：高1E33番 武藤 尚子

「弁護士として主張することは弁護士にしかできない。」僕らこの言葉を聞いて、弁護士という職を担う人々がいかに正義感に溢れ、公平な人であるかを思わせられた。ものごとを見極めるためには一点からのみの視点ではなく、多角的に捉える必要があり、だからこそ、どんな刑事裁判にも弁護士は存在するのだな、と感じた。また、弁護士において主張を通す際には、当たり前なことでも明確に示すことで相手との齟齬を防ぎ、根拠となる事実の信憑性を高めるためにも、一

次情報が重要となる。これは、SNS等が普及し、多くの情報が飛び交う現代の人々にとって非常に大切になくなくてはならないことであると思う。メディアを介した情報は、所詮他人によって伝えられた情報であり、それを信じ切ることは野暮である。また、社会を多角的な視点から見据えることで、デマ情報や誹謗中傷の相次ぐ世の中を生き抜くことができる。今回、廣津先生の講座を受講できて大変嬉しく思っています。ありがとうございました。

文責：高1E37番 山下 直斗

大鶴知之

先生（高校31回生／厚生労働省 中国四国厚生局）

第5講座 行政

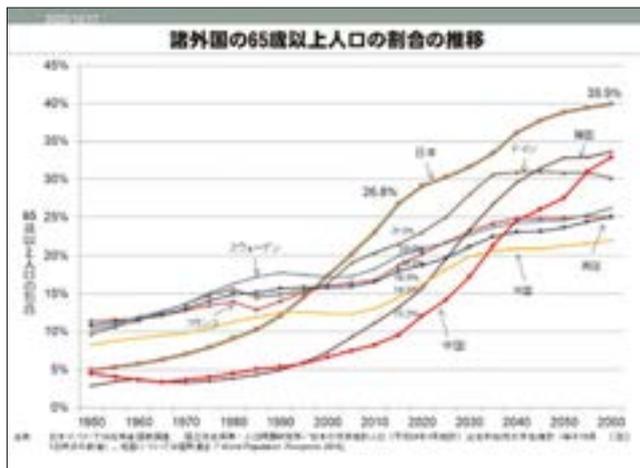
ひと、くらし、みらいのために 国家公務員の仕事

講義の感想

国家公務員の仕事がどのようなものか知りたくてこの講座を選択したが、講師の先生が中国四国厚生局長だときき、ちょっと気難しい人が来るかもしれないと不安だったが、実際は朗らかで気さくな先生だった。先生は、内閣のもとで参事官として働いたこともあるすごい人で、年金の話を中心とした話をしていただいた。年金がどのようなものなのか祖父や祖母に聞く機会もなかったので、年金に関する制度や課題、これからのことなど非常に興味深い話を聞くことができた。また先生が国際年金課長といういろいろな国と話し合



い、在日外国人などの年金を決める仕事についていた時の話もしてもらった。様々な国で会議をしている



先生の写真をみせてもらったが、どの写真も楽しそうに仕事をしていて、堅苦しいイメージがあった公務員もそんなに悪い仕事ではないんだと感じた。おもし

ろい話を聞くことができて良かった。

文責：高1B38番 渡辺浩太郎

大鶴知之先生は厚生労働省に勤務されており、年金加入や世界各国との年金比率の調節、医療法人の管理と言った仕事を為されている方です。

情や年金の加入具合を見ながら均等になるようにする必要があるので。そういった仕事を為されている中で、私が一番驚いたのは、各国の大臣との会談は勿論、その国の住民の家の中にまで視察を行っているということです。このような仕事には、その国の実情をより正確に知り、人々の意識の内までも考慮する必要があります。そこまでやる、だから的確な判断が可能になるそう感じました。

まず年金加入についてだが、そもそも年金って完全に強制ではないのを知っていますか？よって、年金は自主的に各々の意志によって入ってもらう必要があるのです。しかし実際には、年金制度に懐疑的な人が多く、そういった人達にいかにしてこの年金というシステムを利用してもらうかが鍵となってくるのです。そこで必要となってくるのが、複雑な年金システムをいかにわかりやすく、そしてその有用性入ってもらう人の立場に立って説明していくことが求められる者です。

最後に医療法人の管理において肝となるのは、どれくらいまでの病気の症状やその原因を国の責任として無償で養うかと言うことです。これも、世論や国の財政、倫理的なものの憂慮という様々な要素が絡んできます。

次に世界各国の年金比率の調整がなぜ必要となってくるのかというと、年金の比率一つとは言え、年金が安く、国政が安定しており、サービスが充実している国に人は流れます、それを防止するために、各国の実

その当事者の目線に立って、未来を見据えながら的確にものを進めていく、大局的な視線と個を見つめる力の両方で分析と統合をしていくと言った印象を強く受けました。

文責：高1C25番 野口樹能生

私は、国家公務員について、公民の授業で習ったことだけしか知らず、自分には関係のない、遠い職業のイメージが大きかった。大鶴先生の話聞いた今もまだ、そのイメージが完全に消えたわけではないが、国家公務員の仕事に関しては理解を深めることができた。社会保障や年金についても詳しく知ることができた。

必要とする。そのため、学校の授業などでも、文系だけでなく幅広い興味を持って勉強をするべきだと感じた。

まず、私は、国家公務員になるためには、文系の学部を出るのが普通であるイメージがあった。しかし、同じ省の中でも、仕事の範囲が広くいろいろな知識を

また、私は英語が好きで外国への留学も興味があるため、外国での仕事を行うことができたり、他国との会議などで海外の人と話したり、仕事したりする機会を持てるということに興味を持った。

今回の講座で、他の国家公務員についての話も聞いてみたいと思った。本当にありがとうございました。

文責：高1E25番 中川 愛結

行政関係の仕事に就きたいと漠然とした進路決定に留まっていたのですが、厚生労働省が何を行っているのかをデータの具体的な数値で詳しく知ることができ、なりたい将来像が鮮明なものになりました。こういうデータは自分で調べようと思ってもなかなか見つけられないので、とても良い勉強になりました。データから見えてくる課題、それに対する厚労省の業務を手元の冊子を見ながら学べる良い機会になりました。特に印象深かったのが、他の先進国の超高齢化は2030

～2040年に訪れるというグラフでした。これまであまり意識したことがなかったのですが、言われてみれば他国ではあまり話題にのぼらないことについてよく議論されていたり、日本は他の先進国と比べても国際的に先例のない課題を多く抱えている国なのだと改めて実感しました。課題先進国と言われている所以も感覚として理解できた気がします。今後の進路決定にも役立てていきたいと思います。ありがとうございました。

文責：高1E33番 武藤 尚子

兼松 隆

先生（高校31回生／九州大学大学院歯学研究室口腔機能分子科学分野 教授）

第6講座 研究・教育

偶然か必然か 基礎医学研究の世界

講義の感想

僕はこの講座を受けて、偶然は偶然ではなく自分で見つけて掴む物だと思った。最初僕はノーベル賞を取るには実力もだが運も必要ではないだろうかと考えていた。しかし、先生の話聞いて、偶然は自分で起こしていると思った。また研究者という生き方にも色々方向性があるって今日ではどれも実用化する方向に向かっていることも先生は仰った。僕は科学者になりたいと思っているが、その話を聞いて余りに漠然としていてもっとよく考えないといけないなと思った。それと同時に、僕にはまだ偶然を掴み取れる力はないだろうと悟った。何故なら、何か大きな事を成し遂げるには、偶然が必要だがそのためには準備が大切だとイギ



リス童話で示されたからである。そして、先生は、幸運は努力する人のみやってくると話された。僕も偶然を神頼みする前に最大限の努力をしなくてはならないと思った。そして、これからの学校生活こそ努力しようと思決意した。

文責：高1A48番 諸永 柊也

実際に医療系の研究を現職になさっている方から、研究や留学、研究者になるための手順など、研究系を志願するにあたって必要となることを、丁寧に解説していただけて、とても役に立った。特に、研究職に就くための博士号の取り方については、外部の人間からではあまり知ることのできない実情を教えてください、とてもありがたい内容だった。また、研究に対しての考え方も、現職の方からの貴重な意見を知ることができた。さらに、先生の人生観・成功するために必

要な要素のお話も、興味深く、考えさせられるものだった。先生もおっしゃっていたが、偶然や知性、洞察力を頼りにして手に入れるような、予測していなかった幸運ばかりに頼って生きていくわけにもいかない。もちろん研究にはその要素も必要になるかもしれないが、相応の準備をした人にこそ偶然の幸運を手に入れられる、という話には納得した。価値に気づき、行動し、成果にする力を育てていきたい。

文責：高1B01番 秋吉 美佳

この講座では、自分がまだ漠然としか知らなかった

研究者という職についての情報と、その中でも講師の

兼松先生が大切にしていってくださった「偶然と必然」の発想を得ることができた。まずは、自分に合っているからという理由で研究者になることを視野に入れていたにも関わらず、大学を出てから研究者になるまでの道のりが想像をはるかに超えた大変さであったことを初めて知った。他にも学べたことは多くあったが、一番の収穫は、やはり偶然の幸運はそれを受け入れる準備している人があるからこそ成立するということを理解したことだろう。今までも同じような言葉は何度も聞いてきたが、ここまで心に響くものはなかった。不思議とやる気が出てきたということも含め、たった一時間で色々なことを吸収できたように感じる。これからは、自分の進むべき道を精一杯悩みなが



ら、偶然の幸運が訪れたときに受け入れられる自分になれるように努力していきたい。

文責：高1D31番 前田 知咲

今回の進路講座で学んだことは、人生は選択の連続であり、その選択を左右するのは必然的な偶然であるということだ。初めにこの言葉を耳にしたとき、偶然は偶然であって、人が岐路に立ったときに選択するのは、そのときたまたま条件が一致する方なのではないかと思った。しかし先生のお話の中では、その偶然をつくり出しているのは前々からのその人の努力であり、さらに努力している者はその偶然が必然的な幸福にも変化する力になりうるのだとおっしゃられてい

た。それには好奇心や冒険心といった何事にも挑戦していく精神、観察力や発想力といった物の価値に気づける力、行動して成果をあげる実行力が必要であるという。そしてこの附設という学校は、これらの要素を獲得できる最高の場であるとのことだった。この先、自らの意思で選択しなければならないことが増えていく。恵まれた環境にいることに感謝し、偶然を必然に変える力を身につけたいと思った。

文責：高1E08番 甲斐原みづほ

池田裕明

先生（高校31回生／長崎大学医学部医学科大学院医歯薬学総合研究科腫瘍医学分野 教授）

第7講座 医療・研究

新しい治療を創る ～がん免疫療法から新型コロナウイルスワクチンまで～

講義の感想

今回の講座では身近にあるガンと言う病気について、また高校生である我々へのアドバイスをいただいた。

まずはじめに私は今が2人に1人がガンになる時代であると言うことに大変驚いた。ガンの中の特徴には生物の授業で教わったものもあったが、先生によるとこれは単なる1つの見方であるようだ。実際の研究では先入観にとらわれない多面的な物の見方が必要なのだろうと思った。この力を将来身に付けられるようにしたい。

次に先生からのアドバイスで、今の時期に1番大切



なのは自分の好きなものを見つけることだと知った。そのためにも、物の見方を身に付けるためにも本をたくさん読みたいと思う。附設には素晴らしい図書館が

あるのでそれを活用して今より読書時間を増やしたい。先生が学生時代に読んでいらっしやったブルーボックスの本にも手を出してみたい。

今日教わったことを心に留めて今後の学校生活を送っていききたい。

文責：高1A16番 佐野 圭

第7講座で僕は物事を鵜呑みにせず、視点を変えた見方をすることが重要だと学びました。Weinberg氏が考案した10個のガン細胞の特徴は一つのわかりやすい分け方であって、別の分け方をするとまた新たな面白い発見があります。ガン細胞の特徴は10個なんだと覚えるのではなく、本質を捉え理解しなければなりません。また、先生は論理的・批判的な見方で学ぶべき世界観を俯瞰し、キーワードが頭に整理される能力が重要であるとおっしゃっていました。自分の人生に必

要な情報は自ら取りに行き、情報を駆使し困難を能動的に解決しなければならぬと感じました。先生自身は留年によりガン研究のきっかけとなる恩師と出逢ったそうです。失敗と覚えることがあってもチャンスと考え、その出逢いを大切にすることを教わりました。失敗は自分の弱点を知るいい機会と考え、ポジティブな生き方をしたいと感じました。

文責：高1A46番 森永 誠也

今回の講座では、先生から研究における計画の重要性、また先生が行われたがん研究から導き出された結果に対する見方について学ぶことができました。私は臨床医を志しているのですが、がん研究において、まず、がんとは何かを自分で特徴付け、がんの直接的原因がタバコであるということや、がんは遺伝するといった一般的ながんの定説を批判的に見ることが大事だという研究の流れを学んだことで、研究医という新しい選択肢を見つけることが出来ました。現在がんは

放射線治療がメジャーであると言われていますが、先生が研究されている免疫療法という新しい治療法は、放射線治療に対して不安を抱いている患者さんの選択肢が広がる素晴らしい治療法だと感動しました。私も将来は多くの患者さんの不安を取り除き、未来を助けることが出来る医師になりたいと思います。今回は素晴らしい講座をして頂き、ありがとうございました。

文責：高1C13番 佐々木瑞萌

医学部に行ったのに研究の道に進んだことや自由研究の話などを聞いて、本当に研究が大好きなんだなあと感じました。医者になるためには、学力はもちろん必要だがそれだけではなく、人とのコミュニケーションが大事だと仰っていてこのようなアドバイスをしてくれたのは初めてだったのでいい話が聞けました。また、池田先生が大学の先生に影響を受けてがん免疫の研究の道に進んだように、人生の転機となるようなことはいつ起きるかわからないものだなあと考えたとともに、私もいい出会いをしたいものだなと思いました。

研究では発想の転換が必要であり、それは難しいことだと思います。がんの治療法の免疫細胞を遺伝子改変してがん細胞を殺せるものをつくる「遺伝子細胞療法」もこんなことができるのかと感心しながら聞きました。新型コロナウイルスのワクチンの開発もしていると知って、がんと関係ないのにと感じていましたが、がんの研究に通ずる部分があって研究は奥が深いなと思いました。とても楽しく聞くことができました。参考になる話をありがとうございました。

文責：高1C31番 宮本 芽依



**原田 祥平** (68回生)

九州大学医学部医学科1年

課外活動の制限も解除され、 徐々に普段通りに戻りつつあります

高校68回生の原田祥平と申します。大学生生活の現状について、まず大学へ行く頻度を説明しようと思います。前期(4月～8月上旬)のおよそ半分の期間がコロナ禍の影響によりオンライン授業でした。宣言が解除され他の授業の形態が対面に戻っても、オンラインのままで続ける授業もあったので、自宅で授業を受ける期間はより長くなりました。

オンライン授業の是非はというと、個人的には悪くないと思います。質問がしづらいのは残念ですが、授業内での活動にオンラインの弊害というものはそんなに感じられず、不満は特にありませんでした。

しかし、課外活動は別です。私は医学部水泳部に所属していますが、私が活動に参加できたのはわずか3回ほどしかありません。これは緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間中は大学から課外活動の制限があったからです。その制限は一部の対面授業が再開された後も続き、夏季休暇中も活動が再開されることはありませんでした。結果として大学一年生の前期と夏季休暇は悪い意味で特に何事もなく過ぎました。

期待していたキャンパスライフを実現するには時期が悪いと言えばそれまでですが、後期からは前期はオンラインだった科目が対面になり、課外活動の制限も解除され、徐々に普段通りに戻りつつあります。前期では行われなかったクラスや部活動の対面での交流会などのイベントも後期には予定されており、コロナ禍という特殊な状況下での大学生生活をいかにして過ごすかさらに模索していきたいと思います。



今村 啓明 (63回生)

京都大学医学部医学科 6年

6年の大学生生活の終わりに

はじめに附設同窓会の皆様、はじめまして。附設63回生、京都大学医学部医学科6年生の今村啓明と申します。この度は同窓会報に寄稿する貴重な機会をいただき感謝いたします。半年後に卒業をむかえますが、私が6年間通い暮らした、京都大学と京都という街について、紹介させていただきます。

京都大学について 私は、一浪した後に2016年に京都大学に入学致しました。京都を選択した理由は、一度九州という地を出てみたかった、そして仲の良い友人が受けるから一緒に行きたかった、というありふれたものでした。医学部を選択した理由は、恩師坂田先生の元で生物を学び、その後も生物を学び続けたいと考えたからでした。京都大学医学部の特徴は、やはり学生の自主性が強く尊重されていることにあると考えています。多くの授業は出席がとられませんし、試験は追試で捨ててもらえる、といったように、卒業の要件を満たすのはかなり楽な方だと思います。教育は良くも悪くも放任で、望む学生には日本屈指の環境を与えてもらえますが、自分からアクションを起こさない人には、チャンスは与えてもらえません。私自身、その莫大な自由な時間の中で、何を目指し何を行うのがとても難しいものでした。自分はこうなりたい、という目標を持っている同級生を横目に見ながら、悩む日々が多くを占めていたと思います。6年間を大学生生活を通して、京都大学はとても自分自身に目を向ける環境だと、私は考えています。

京都という街について 私は高校卒業までは佐賀県の東部に住んでおり、浪人の際は福岡の天神の近くにある寮に住んでおりました。大学時代には、日本各地の様々な都市を旅行したのですが、ここで私自身の感じた京都の街の特徴を書かせていただきたいと思います。京都の街の特徴は、そのコンパクトさにあると思います。街の中心部である三条と四条には、大体の店がそろっており、飲食店も集中しています。市内での移動に自動車は必要とせず、自転車さえあれば事足ります。観光地も徒歩圏内であり、鴨川は中心部の近くを流れており、有名な寺社仏閣も街にありふれています。このコンパクトさが、京都での学生生活が楽しく感じる要因だったと考えています。特に、学生生活において、終電という概念はなく、飲みに行

った際は鴨川沿いを夜な夜な歩いて帰るといったこともあり、良い思い出となりました。加えて、京都は学生の街と言われるように、人口に占める学生の割合が多く、東京大阪福岡のような社会人がメインの街とは異なったゆったりとした空気感があるように私は感じました。

おわりに 大学生生活は、高校までの同級生としか関わらなかった環境とは異なり、学生の先輩後輩、社会人の方と関わる機会が格段に増えました。自分にはできないことができる優秀な人がありふれる中、自分らしさを見つけるため、もう少しこれからも頑張りたいと考えています。

最後になるのですが、最近私は基礎医学系の研究室に通わせていただいております。そちらの研究室で教えていただいている先生が偶然にも附設出身の先輩の方でした。正直、こんな偶然があるのかと思いましたが、附設のすごさを改めて実感致しました。これからも附設出身の先輩方にはお世話になると思いますので、どうかよろしくお願い致します。



京都大学医学部サッカー一部
中央3が筆者



廣田 将 (66回生)

甲南大学マネジメント創造学部3年

後輩、先輩そして同級生に恥じないよう頑張りたい

皆様、こんにちは。附設66回生、甲南大学三年生の廣田将と申します。このような機会をいただけたので高校とは打って変わって真面目で行動的になった私の大学生活をお話しさせていただきたいと思います。

私は高校三年生までは不真面目そのもので、浪人期から心を入れ替え、真面目を志しました。大学ではすべてに全力投球しよう、真面目に行動を起こし続けよう、と意識して様々な活動をしてきました。まず一つ目は大学への授業の提案です。大学のある兵庫県を中心に、様々な場所に足を運び、その地域の課題を発見、そして解決を目指すというフィールドワーク型の授業の提案を行っています。大学生が地域の方と協力し実践的な学びを生徒に提供するのが目的です。現在は、大学の近くにある商業施設や市役所にアイデアをプレゼンする授業の準備を大学側と行っている最中です。

二つ目は、大学内で学生起業を志す生徒を支援する団体の設立に向けて奔走しています。コロナウィルスの影響で環境が変わり起業という選択肢を視野に入れた学生のサポートができれば、と考えて行動を開始しました。大学側とリスクとメリットとお金の話を永遠に繰り返しているのです。そろそろ気が減入りそうですが、めげずに頑張りたいと思っています。

三つ目は、奨学金受給者のイベント幹事会での活動です。学部の首席をやっているのですが、奨励金をいただいたことがきっかけで今年から奨学金会の幹事を務めさせていただいています。過去と現在の奨学金受給者や大学に資金を提供してくださっているOBの方との縦のつながりを強化することを目的に様々なイベントを開催しています。過去のイベントは盛り上がりはするものの、単発で終わってしまうことが多く、その傾向を打破するため、自分なりに頭を悩ませています。今から一か月後のイベントでは責任者なので、全く気の休まる瞬間はありませんが、今の自分にできる最大限の努力をしようと頑張っています。

受験や勉強に関して私が後輩にアドバイスできることは何もないと思います。強いて言うなら。奇跡は起こらないよ、くらいです。附設生のすごさは卒業後のほうが強く感じます。秀でた級友との時間を意識するのは自分にとって大きな意味をもたらすこと間違いなしです。私はこれからの人生、後輩、先輩そして同級生に恥じないように生きられるよう頑張りたいと思っています。



東京支部長に誘われて、同窓会長、東京支部長、関西支部長と長門石純一先輩の食事に一緒できました。左から、栗木康幸東京支部長(21回生)、筆者、甲斐田郁夫関西支部長(21回生)、吉田清隆同窓会会長(23回生)、長門石純一さん(21回生)

附設合格状況

附設高等学校進路指導部長 **城戸 清** (23回生)

国公立、大学校など合格者数 (単位:人)

2020年度		2021年度	
東京	31	東京	36
九州	44	九州	42
京都	14	長崎	17
長崎	13	佐賀	9
熊本	9	大阪	8
大阪	7	山口	8
鹿児島	6	熊本	7
山口	5	京都	6
芸術医療	12	芸術医療	16
その他	53	その他	54
合計	194	合計	203

※その他に、芸術医療、産業医科、大学校(芸術医療科)を含む

東京芸術大学美術学部芸術学科、合格進学(再受験の卒業生)のながきが3月17日に届きました。進路指導部では思わず「すごい」の声、文化芸術は「至急必要」ではないが必要不可欠です。3月～5月の「緊急事態宣言」の休校で、高校3年生が中心となって運営する学校祭は、準備半ばで中止を余儀なくされました。生徒一人一人、休校期間中に心の整理をしつつ、受験勉強へと重心を移動していったと思います。教員側も、宣言延長のたびに予定変更を繰り返し、学校再開後は夏休み・冬休み短縮、課外授業カットで、例年並みの授業時間を確保しました。

東京大学合格者

2020年度
31名



2021年度
36名

コロナ禍の受験を振り返って

国公立医学部医学科合格者数 (単位:人)

2020年度		2021年度	
九州	26	九州	26
長崎	11	長崎	14
熊本	7	佐賀	9
山口	4	山口	8
鹿児島	4	熊本	6
大阪	3	大阪	4
北海道	2	鹿児島	4
宮崎	2	東京	3
広島	1	広島	3
その他	12	その他	18
合計	72	合計	95

※その他に、福岡と山形医科大学、自治医科大学、東京医科大学

今年の国公立医学部医学科合格者は95名。これは全国2位の数字です。そのうち現役合格者は61名となっており、昨年に引き続き「現役合格率」では全国1位となりました。本校は2013年に中学を男女共学化し、入学時から医学部を志望する女子が増えてきたことが大きいですが、現役高3(69回生)のほぼ半数が医学科志望で、医学部受験が当たり前の環境にあり、一層に頑張るといふ雰囲気醸成された効果も大きいと思います。また数学の教員が中心となり、英語や国語教員らとのチームワークで学力を引き上げたことも成果につながったと考えられます。

医学部合格者ランキング



「現役合格率」は全国1位

私立大学合格者数 (単位:人)

2020年度		2021年度	
早稲田	23(-)	早稲田	19(-)
慶應義塾	22(1)	中央	18(-)
立命館	21(-)	慶應義塾	16(-)
東京理科大学	20(-)	東京理科大学	15(-)
福岡	18(7)	福岡	14(7)
久留米	16(16)	久留米	11(11)
中央	15(-)	同志社	7(-)
明治	10(-)	立命館	7(-)
同志社	9(-)	西南学院	7(-)
その他	95(29)	その他	59(16)
合計	249(53)	合計	173(35)

※(-)は医学部医学科合格者数、(1)は産科

本校の進学者数の8割以上は国立志望者です。推薦や総合型での進学は3名のみで、それ以外の170名は一般選抜での合格、うち半数が共通テストを利用した選抜方式で受験しています。2022年が入試改革初年度になるといって、一昨年の受験生は全国的に浪人回遊傾向が強く、本校でも2020年度入試は私立大学の合格者が249名と例年以上となっていました。2021年度では浪人生の減少から、私立合格者の減少幅が大きくなっていきます。今後もこの傾向は続いていくものと予想されています。

私立大学合格者

2020年度
249名



2021年度
173名

私立大学受験者は減少傾向に



今後に向けて

高2までは日々の学習を年間5回の定期テストで確認しますが、高3と浪人生希望者は年4回の校内模試を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模範試験で、平均点は4割で、4回平均5割以上だと、東京大学、京都大学、九州大学医学部などの難関大学に、東大理系以外は、4割5分以上で合格できます。問題作成と採点には、本校入試同様、ほぼ全教員が参加し、成績検討会にも出席します。高3の授業がなくても、問題作成と採点での指導です。高3になったときに実力がついているよう、高2以下の生徒の学習指導に生かしていきます。

現役高3(69回生)は、数学科の学年主任を中心に、英国理社の担任団が生徒、保護者との信頼関係も厚く、校内模試4割5分以上の実力を持った生徒たちが例年以上に多く、期待通り医学部現役合格数を更新しました。志高く努力を続けて挑戦したものの東大文系、東大理三、京大医学部の厳しさも同時に知りました。これからは、授業と特別講座で真剣に学び、校内模試で現浪が切磋琢磨して実力をつけてほしいと願い、全力で指導に取り組む覚悟です。

進路指導担当 城戸 清



井浦 健人 (70回生)
生徒会長

附設の歴史に、将来に誇れるような 新たな歴史を積み重ねることが できるように頑張っています。

こんにちは、附設高校70回生生徒会長を務めさせていただきました井浦健人です。毎年「読む側」だった同窓会報に「書く側」として寄稿させていただく機会を頂戴し、大変身が引き締まる思いです。私からは在校生目線からの「附設のいま」をお伝えしたいと思います。

最初に、最近の学校全体の様子をお伝えします。8月後半の新型コロナウイルスの感染者数増加を受けて、9月11日に実施予定だった体育祭が11月に延期となりました。私たち70回生は毎週のように秋模試を受験するため、残念ながら参加することはできませんが、71,72回生の皆さんが懸命に準備をし、素晴らしい体育祭を開催されることを願っています。71回生以降の代からは、一人一台タブレット端末を所有することになり、附設の教育の様相も変わりつつある気がします。7月下旬には、70回生の18歳以上の生徒が任意で久留米大学にてコロナワクチン接種を受けることができました。全国的に見てもかなり早い段階だったはずですが、その後に各自で接種する生徒もおり、副反応のため出席停止になることもありましたが、今では全員無事に学校生活を送っています。9月下旬には各教室に業務用の空気清浄機が導入され、より一層強力な感染症対策が行われています。

昨年度、70回生においては、高2での授業進度の遅れが懸念されていましたが、遅れは高3になるころには取り戻し、高3での授業数はコロナ禍前の例年同様になっています。2月に行われる予定だった北海道でのスキー研修こそ中止になりましたが、体育祭・文化祭といった生徒主体となって作り上げる行事を無事に開催することが出来ました。これらの行事は生徒の日頃からの準備・感染症対策、先生方のご協力、および同窓会や後援会等の学校関係者の皆様のお力添えがあったからこそ開催できました。感染症対策に配慮しなければならないため、初の試みが多く、苦勞したことも数多くありましたが、そうした困難を乗り越えてさらなる成長を遂げたものと思います。

文化祭が終わってからは、特講・校内模試など日々の授業に加えて附設独自の受験対策も始まりました。特講は全20回のうち10回、校内模試も全4回のうち2回が既に実施されました(9月現在)。受験までの折り返し地点を過ぎたのだと強く実感しています。さらに、最近では共通テストの願書記入もありました。共通テストまではあと4ヶ月を切っており、2回目は難化するという予想もありますが、最後まで学力を伸ばし、いかなる事態にも対応できるように心掛けていきます。直近の入学試験では、防衛医科大学校の一次試験が10月23日にあり、理系のほとんどの生徒が受験します。1日が過ぎるごとに70回生の緊張感も徐々に高まっているのが感じられます。

9月下旬、世間は様々な話題のニュースで溢れています。様々なことに興味関心を抱くのは大切なことですが、私たち受験生は何よりも勉強に注力しなければなりません。日々の授業・特講で蓄えた学力を校内模試・外部模試に生かし、分からなかった問題は徹底的に、自らの血肉となるまで復習する。こうした行動を積み重ねて、第一志望校現役合格に向けてただひたすらに駆け抜けていきます。附設の長く、偉大な歴史の70ページ目に新たな歴史を加え、先輩方、後輩のみなさんの期待に沿えるようにこれからも頑張っていきたいと思います。



山中心源 (70回生)

第51回久留米大学附設高等学校文化祭実行委員長



第51回文化祭「男く祭」を終えて

初めまして。第51回久留米大学附設高等学校文化祭実行委員長を務めさせて頂いた高校3年(70回生)の山中心源と申します。この度は、拙筆ではございますが、2021年4月25日・27日に行われた附設の文化祭『男く祭』の実行に当たり苦心した点や私を感じたことを語っていただければと思います。

私達の第51回文化祭を語る上で最も外せないファクターは、新型コロナウイルス感染症の流行でしょう。2020年に行われる予定だった先代の第50回文化祭の中止、そして約2ヶ月間の休校を経て、私は先輩方の思いを受け継ぎ文化祭を引き継いでいかねばならないという責務を感じたのを覚えています。私達は、(学校での課外活動禁止期間だったためオンラインミーティングで!) 会議を重ねて、コロナ禍での文化祭開催を探っていきました。9月には、無観客という形ではありますが無事に体育祭が行われ、これと入れ替わりに文化祭準備が加速していきました。とは言え、今年の文化祭準備は例年とは全く違う様子を呈しました。例えば1日目の食品バザーをとっても、例年のように生徒が調理することは可能なのか? 食事場所を制限し、入れ替わり毎に消毒をする必要があるのではないのか? その場合シフトの人数は足りるのだろうか? などなど検討すべきことがたくさんありました。2日目についても同様で、コーラス大会や座席の配置など様々な課題が浮上し、文化祭の本当に直前まで何度も議論を重ねました。各企画の準備や練習についてもマスク着用や室内の換気等定期的に見回りや指導が行われました。例年の準備の様子を知る先輩方からしたら想像もできないことではないでしょうか(笑)

しかしながら、70回生を始めとした生徒は皆諦めずに準備に取り組みました。同時に、消毒等の感染対策を実行する防疫Pの誕生を始めとして、各種の感染対策も練られました。その結果、我々は第51回文化祭を無事に開催することができました。1日目ではステージ企画や校内企画、各種装飾などの企画が学校にて行われました。2日目では太鼓や講演、コーラス大会、映画、パフォーマンスなどが久留米シティプラザにて行われました。尤も、完全に例年のような形で開催することは叶わず、入場制限や食品バザーを調理済みの食品の仕入れ・販売のみとするなどの対策は必要となりました。それでも、生徒一人一人が、自らの手で行動を起こし文化祭というイベントを一から成し遂げたこと、69回生を始めとした諸先輩方から受け継いできた伝統を絶やすことなく後輩に引き継ぐことが出来たこと、そして何よりも生徒皆がその過程を楽しむことが出来たことは、私達にとって誇りとも言えるものになりました。

新型コロナウイルス感染症の流行はまだまだ終わりそうにはありません。また、この先現在では予想もできないような新たな危機が訪れることもあるのかもしれませんが、そうした理不尽な大状況の中でも、私達附設生には自らを取り巻く小状況を改善しながら闘っていく底力があるのだ、と私はこの文化祭を通じて実感しました。この底力を発揮して、これから先も附設の文化祭が発展していくこと、そして附設生が社会を担う存在になることを祈念しています。最後になりましたが、私達が文化祭を無事に開催できたのは、広告をはじめとする先輩方の援助もあってのことです。本当にありがとうございました。

令和2、3年度教育振興基金を 財源とした活動の報告について

町田 健
附設高等学校・中学校
校長

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言下であり、附設においても3月からの休校を余儀なくされました。6月より授業を再開し、教職員一同徹底した感染対策を行い、生徒が安心して学べる環境を整備することに努めました。また、令和3年度においても、昨年につき、2学期開始より臨時バスの運行に加え、感染対策を強化しました。具体的な対策は以下に挙げる通りですが、これにかかる経費につきましては、附設高校同窓会および同窓生ならびに保護者よりご寄付いただいた教育振興基金より支出いたしましたので、ここにご報告いたします。

●令和2年度は臨時的かつ火急的な支出、令和3年度は事業計画等によるもの



○臨時バス（令和2、3年度）

学校再開に伴い、密を避けるための措置として、登校時間を中学と高校で一時的に分割することといたしました。しかし、中学の登校時間帯は路線バスの本数が少なく、1便あたりに乗車生徒が集中してしまうことが予測されたため、急遽、堀川バスに協力を要請し、令和2年は6月から7月初旬、令和3年は9月から10月初旬のそれぞれ1か月間、JR久留米駅および西鉄久留米駅からの臨時バスを運行させることができました。朝は4便、夕方は3便の計7便を発着させ、生徒の登下校時の利便性と安全性の向上を図りました。

○生徒用LTE（携帯電話の通信システムを利用する仕組）タブレットの配付（令和2年度）



附設ではこれまでもICT教育環境を段階的に導入する計画を立てていました。しかし、コロナ禍において生徒のオンライン家庭学習環境を充実させることが急務となり、生徒個人へのタブレットの配付を決定いたしました。その際、採択されたNTTドコモのセルラーモデルのレンタル料金を、令和2年11月から3月分は保護者負担にはせず、教育振興基金を原資として賄うことで迅速に導入することが可能となりました。令和3年度からは保護者負担に移行する旨の了解を得ています。



○食堂用アクリル板の設置（令和2年度）

令和2年6月の学校再開と同時に開寮もいたしましたが、食事の際の飛沫感染防止対策が必須でした。急遽座席を間引きし、テーブルの中央にビニールを張り、対面で食事する環境を回避しました。また、日中は学食として利用されるため、昼休みの時間は中高で分割させるなどの配慮をしましたが、衛生上、感染対策用品も充実させ、入手しやすくなった年末に、アクリル板を購入・設置し飛沫感染対策を行いました。



○女子生徒更衣室へ紫外線照射装置（空気清浄機）の設置（令和3年度）

女子生徒の更衣室は中学1年から高校3年生まで各学年1部屋、計6部屋あり、着替え中は密にならないように分散していますが、更衣室という場所柄、換気が不十分なことや部屋が狭いことでの飛沫感染や空気感染のリスクが高いことから、9月に設置しました。



○教室等へ二酸化炭素濃度測定器の設置（令和3年度）

新型コロナウイルスの感染対策として、最も有効な方法は教室の換気があげられますが、教室の空気の状態を「見える化」し、過密状況を把握して、換気するタイミングを確認するため9月に35台を設置しました。



○教室等へ空気清浄機の設置（令和3年度）

教室や食堂が密になることから新型コロナウイルス感染対策として、教室、中・高校寮、食堂等に計65台の空気清浄機を9月から10月にかけて設置しました。換気は常日頃から行っているものの、授業中および中・高入試時は生徒や受験生が密になり、飛沫・空気感染のリスクが高いことから導入しました。

在校生の活躍・附設グッズ

砂場泰浩 (21回生)

(1) 久留米大学附設中学校・高等学校全景



- ① 正門
- ② 校舎東棟
- ③ 校舎西棟
- ④ 1号館
- ⑤ 体育館・食堂
- ⑥ 第1グラウンド
- ⑦ 第2グラウンド
- ⑧ 高校寮
- ⑨ 中学寮
- ⑩ 陶芸教室棟

(2) 在校生の活躍 (2020年—2021年)

在校生は多方面で活躍しています。その一部を紹介し
ます。

(2020年7月)「第52回国際化学オリンピック」にて銀賞・ 文部科学大臣表彰

「第52回国際化学オリンピック」(2020年7月31日)にて
高校3年生柴山礼寛君が銀賞を受賞し、この成績を踏ま
え、併せて文部科学大臣表彰を受賞しました。

(2020年9月)「第16回全国物理コンテスト 物理チャレ ンジ2020全国大会」にて銀賞、銅賞、優良賞

「第16回全国物理コンテスト 物理チャレンジ2020全国大
会」(第2チャレンジ)(2020年9月20日)にて、【第2
チャレンジ銀賞】高校3年生稲田祐輝君 高校2年生楠元
康生君、【第2チャレンジ銅賞】高校3年生濱田諒大君、
【第2チャレンジ優良賞】高校2年生永泰樹君以上4名が
受賞しました。

(2020年11月)「14回全日本高校模擬国連大会」出場

「14回全日本高校模擬国連大会」(2020年11月14日、15
日)の2日間にわたって、大会が実施されました。高校1
年生白倉諒子さんと細川留花さんの2名が見事一次試験を
突破し、本戦へ出場いたしました。本戦では、今後の宇宙
利用についてどうあるべきかという議題について、国連大
使として活発な議論を行い、合意文書を発行しました。

(2020年12月)「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコ ンテスト2020」にて国際協力特別賞

「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2020

において、中学1年生の田村悠花さんが『国際協力特別
賞』を受賞しました。

(2020年12月)「日本生物学オリンピック2020代替大会」に て銀賞・銅賞

「日本生物学オリンピック2020代替大会」(2020年12月20
日)にて 高校3年生の本橋るりかさんが銀賞、高校1年
生の川上航平君が銅賞を受賞しました。

(2020年12月)「第62回九州高等学校演劇研究大会」にて優 秀賞、福岡県代表として春季全国大会出場

「第62回九州高等学校演劇研究大会」(2020年12月25・26
日)にて、演劇部は福岡県代表として出場しました。コロ
ナ禍によって振り回される若者達を描いた演劇『19-
Blues』を上演し、優秀賞2席を受賞しました。その結果、
2021年3月26~28日(金~日)に、北九州市・北九州芸術
劇場で行われる第15回春季全国高等学校演劇大会(福岡大
会)に福岡県代表として出場しました。



(2020年12月)「第64回全国学芸サイエンスコンクール」に て文部科学大臣賞・金賞・入選・文化放送学校特別奨励賞

「第64回全国学芸サイエンスコンクール」(主催 旺文
社)にて、中学3年生の田上裕樹君、江森優さん、鶴丸夏
希君、水草茉渚さん、渡辺早咲さん、田子裕太郎君の卒業

論文・制作が、文部科学大臣賞・金賞・入選作品に選ばれました。また、本校に対しても、文化放送学校特別奨励賞（文芸 I 分野小説部門）が授与されました。

(2021年1月)「科学の甲子園ジュニアエキシビジョン大会」にて第1位

「科学の甲子園ジュニアエキシビジョン大会」(2021年1月21日)において、久留米大学附設中学校Aチーム(中学2年生:石井悠人君、藤原貴良君、山下裕佳さん、矢山聡一朗君、田村慶和君、渡邊寛大君)が化学分野で第1位、Cチーム(中学1年生:杉本唯純君、竹下静香さん、田村悠花さん、丸田啓貴君、湊美優さん、下嶋悠太君)が情報分野で第1位となりました。Cチームは総合でも12位の好成績を収めました。

(2021年3月)「第13回日本地学オリンピック」にて銀賞

「第13回日本地学オリンピック」(2021年3月15日)にて高校3年生楠元康生君が銀賞を受賞しました。

(2021年3月)「ロボカップジュニア日本大会2021」にて2位・ソフトウェア奨励賞

「ロボカップジュニア日本大会2021」(2021年3月27、28日)にて「NIPPON League レスキュー」競技で中学レゴ部の中村陽向君が第2位となり、「ソフトウェア奨励賞」も受賞しました。

(2021年3月)「第10回科学の甲子園全国大会」にて2位・テクノプロ賞・ヤガミ賞

「第10回科学の甲子園全国大会」(2021年3月19日~21日)にて、高校2年生の楠元康生君、糸永泰樹君、竹下和樹君、福井卓志君、升永安穂さん、山田隆博君、高校1年生の川上航平君、宮崎莉子さんの8名が久留米大学附設高等学校の選抜チームとして出場し、総合7位入賞(筆記競技第3位)を果たしました。また、実技競技(1)で優れたスキルを発揮した優秀校として企業特別賞「テクノプロ賞」(スキル賞)を受賞、実技競技(2)の部門では第2位となって「ヤガミ賞」を受賞しました。

(2021年4月)「EGMO 2021ヨーロッパ女子数学オリンピック ジョージア大会」銅賞

『EGMO 2021ヨーロッパ女子数学オリンピック ジョージア大会』(2021年4月10日~12日)で高校1年生 山之内望花さんが銅賞を受賞しました。

(2021年5月)「第21回アジア物理オリンピック」にて金賞、銅賞

「第21回アジア物理オリンピック (APhO)」(2021年5月17日~24日)にて高校3年生の糸永泰樹君と楠元康生君が参加し、楠元康生君が金賞を、糸永泰樹君が銅賞を受賞しました。

(2021年7月)「第51回国際物理オリンピック」にて金賞・銀賞

「第51回国際物理オリンピック」(2021年7月17日~24日)にて、日本代表(全5名)のメンバーとして高校3年生の楠元康生君と糸永泰樹君の2名が参加し、楠元君が金賞を糸永君が銀賞を受賞しました。その結果を受け、文部科学大臣より「文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。

(2021年9月)「日本生物学オリンピック2021」にて銀賞

「日本生物学オリンピック2021」(2021年9月18、19日)にて高校2年の川上航平君が銀賞を受賞しました。また、この大会は国際生物学オリンピックの日本代表候補選考も兼ねており、高校2年生以下の成績優秀者で構成される日本代表候補12名の中に川上航平君も選出されました。

(3) 附設グッズ



久留米大学附設カレー ¥540

商品番号: 058

容量: 1人前/180g

附設卒業生にも忘れられない食堂カレーの味をベースに国産牛肉を使用。辛さも抑えて食べ心地よい味わいに仕上げました。

※原材料の一部に小麦・乳成分・牛肉・ごま・大豆・鶏肉・豚肉・りんごを含む



附設中高グッズ 三菱五角(合格)鉛筆 あすき色HB

1セット5本入り ¥500

商品番号: 054

附設校の正門をモチーフにした校名入り。

中学バージョンと高校バージョンがあります。

附設カレー、附設グッズの売り上げの一部は教育振興基金に寄付され母校の教育環境整備のために使われますので、同窓会員の皆様にも売り上げへのご協力をお願いいたします。母校売店やインターネットにて購入できます。
URL <https://kurume-u-ep.jp/news/fusetu-item/>

同窓会ホームページの「ご利用の手引き」です

保存版

同窓会WEB名簿ご利用の手引き

同窓会ホームページのアドレスが変わりました！

「HPの新しいドメインは<http://fusetsu-dosokai.com/>です」

IDおよび初期パスワードのお知らせ

同窓会WEB名簿にアクセスして、以下のID・パスワードでログインして下さい。
ログイン後、現在登録されている情報をご確認いただき、必要な変更を行うことができます。**ログインID：旧ログインIDと同じ****パスワード：旧初期パスワードの最初に「fst」を加えた8文字**

※ログインID、パスワードがご不明な方は「お問合わせ」メールフォームからご連絡ください。

- 1** ホームページのWEB名簿
ボタンをクリックして下さい。



クリック!!

- 4** ご自身の登録情報の確認と変更
開示の可否はご自身でお決めください。



編集画面

- 2** 「会員ID／パスワード」を入力後、
ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと
生年月日の登録が必要になります。

- ✓ メールアドレスと生年月日を入力された後、
すぐに確認メールが届きますのでご確認ください。
- ✓ ログイン後、会員ID／パスワードは自由に
変更できます。
- ✓ 万一、変更したパスワードを忘れてしまった
場合は、登録済のメールアドレスと生年月
日で即時に再発行を受けることができます。
- ✓ セキュリティはシステム管理者にて十分に
守られますが、各会員におかれましても、ご
自身のID／パスワードは確実に保管してい
ただきますようお願いいたします。

- 住所、勤務先などの情報はご自身でご変更いた
だきますようお願いいたします。
- 登録情報をどの範囲の会員に開示して良いかは、
ご自分で設定してください。「全同窓生に公開」「同
期のみ公開」「非開示」の設定ができます。

- 3** 会員専用サイトでは主に以下のような
機能があります。

- ✓ ご自身の登録情報の確認と変更
- ✓ 同窓生の検索・閲覧 (WEB版同窓会名簿)
同窓生の情報のうち、開示されたものを検索・閲
覧することができます。

- 5** WEB版同窓会名簿の閲覧

卒業年・期数、氏名、住所、勤務先、利用している
SNSを検索し、本人が開示した情報を閲覧できます。メールアドレスをお持ちでない方は、
FAXやお電話で代理入力しますので
同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL:0942-44-2222 / FAX:0942-44-8257

附設高校同窓会会員の皆様へ

2021年（令和3年）12月吉日

久留米大学附設高等学校同窓会
会長 吉田清隆

母校の新型コロナ対応に向けた 寄付のお願い

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。そして、この世界的な難局にご尽力されている方々に感謝申し上げます。

コロナ禍の継続により、福岡支部および東京支部では昨年につき本年も対面での支部総会と懇親会は開催できませんでした。よって福岡(32回生)と東京(38回生)の幹事団と協議し、昨年同様に両支部総会のパンフレット発行に企画していた記事を含めて、3誌を合体した形での会報を発行することにしました。

本年も、コロナ禍にある特別対応として、いただいた広告料の大半を附設高等学校中学校の教育振興基金へ寄付することにより、母校のコロナ対策を支援することにしました。ご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

これまで幹事団を通じて個人やグループでの寄付をお願いしてきましたが、この場をお借りして、同窓会会員の皆様にも広くご案内し、同基金への寄付をお願いする次第です。

夏場の全国的感染者増大の影響もあり、母校では臨時バス運行、各教室への空気清浄機や二酸化炭素測定器の配備など、本年も教育振興基金を財源としたコロナ対策を実施しております。

どうぞ趣旨をご理解いただき、皆さまからの寄付へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

1) 銀行からの振込方法

振込先：福岡銀行 久留米営業部 普通預金 1722400
みずほ銀行 久留米支店 普通預金 1662333

口座名：久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金

お願い：お名前に「附設太郎23回生」のように卒業回生を記入願います。

2) 郵便局からの振込方法

振込先：01720-9-45035

口座名：久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金

お願い：お名前に「附設太郎23回生」のように卒業回生を記入願います。

3) インターネットからの申し込み方法

附設高校ホームページ⇒教育振興基金⇒久留米大学へのご支援をお考えの皆様へ⇒

インターネットからの申し込み（個人の方のみ）⇒寄付をする⇒寄付の種類⇒16番「附設高等学校・中学校教育振興基金」⇒メールアドレス登録⇒寄付を開始⇒案内に従い入力。

注意事項：手続きの最後に確認事項として、寄付者の属性の質問があります。質問3（必須）では「**附設卒業生**」を選択、質問4では「**附設高等学校**」を選択、質問5では「**高校回生番号**」を入力することで、附設同窓生による寄付であることが明確になります（右図をご参照ください）。 クレジットカード払い、コンビニエンスストア、銀行支払い（Pay easy）ができます。

3 本学とのご関係につきまして、当てはまるものをご選択ください。	附設卒業生
4 卒業生、在学生、在校生の方は学校名をご選択ください。	附設高等学校
5 卒業生、在学生の方は学部と学籍番号、附設生については入学回数または卒業回数の数字のみをご入力ください。	23

4) 問合せ先 久留米大学附設高等学校・中学校事務室 電話 0942 (44) 2222

以上

●同窓会室の紹介●

整備、拡充された、同窓会室・後援会室

同窓会副会長 砂場 泰 浩 (21回生)

1号館1階の旧事務室の後ろに、同窓会室と後援会室が一室に一体的に整備、拡充されました。同窓会と後援会のより一層の連携、協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っております。同窓生OBが在校生に色々とおアドバイスできる場にもなるでしょう。卒業アルバム、附設25年史をはじめとした記念誌、同窓会報バックナンバーなども保管されているので閲覧可能です。母校に来られた折には、是非お立ち寄りください。

同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品のペーパーウエイト ▶



同窓会からのお知らせ

**同窓会に対する各種問い合わせは下記のいずれかでお願ひします
(HPのURLが変わりました)**

【電話】0942-44-2222 【FAX】0942-44-8257 【メール】<http://fusetsu-dosokai.com/contact>

【同窓会ホームページ】<http://fusetsu-dosokai.com/> 【WEB名簿】<https://pu.palsyne.net/s-fusetsu/>

【同期の回生代表世話人】P.36ご参照 回生代表世話人のメアドは同窓会にお問い合わせ下さい。世話人の同意を条件に回答を差し上げます。

※住所変更などの連絡はメールのほか、電話でもFAXでも受け付けしております。(本文P.59ご参照)

※ご同期などの物故者に関する情報をお持ちの方は同窓会までご連絡下さい。

◆編集後記

今年度もコロナ禍のため、定期総会、福岡支部総会、関西支部総会、熊本支部総会及び東京支部総会はWEBでの開催という事態でした。また、福岡支部総会及び東京支部総会でお配りしておりましたパンフレットも昨年同様発行せず、会報だけの発行となりました。会報には、コロナ禍の中対面授業がない現役の大学生他、内外で活躍されている多士済々の同窓生に御寄稿頂きました。広告につきましては、こうした困難の中でも福岡・東京の幹事学年生(32回生と38回生)の皆さんが、同時に協力し合って広告募集を行った結果、多くの広告協賛を頂くことができました。広告掲載にご協力頂きました皆様、幹事学年の皆様、回生代表世話人の方々に厚くお礼申し上げます。広告費につきましては、母校のコロナ対策の一部として協力をさせていただき予定しております。



広報委員会
砂場泰浩(21回生)

今後の会報につきまして、卒業生の同窓会会員、母校の先生方、在校生および保護者の皆様にもご理解を深めて頂きたく、内容の更なる充実に努めて参りたいと思いますので、今後ともご協力ご支援のほど宜しくお願ひ申し上げます。

最後になりますが、本会報に御寄稿頂きました皆様、印刷にご協力を頂いた糸川印刷様(社長 高尾野健様(35回生)、岩佐直樹様)に改めて厚くお礼申し上げます。

久留米大学附設高等学校同窓会

広報委員会：砂場泰浩(21)・古賀善彦(23)・中村和徳(27)・勝連 治(33)

広告募集制度委員会：勝連 治(33)・中村和徳(27)・栗木康幸(21)・実藤光二郎(26)・坂田 敬(32)・高井良輔(38)

協 力：城戸清先生・白水孝典先生・福田佐智子先生・

穴井陽一様(久留米大学 附設高校・中学校事務室室長)・

中村昌子(附設高校同窓会事務局)・長野佐知子(メディア総研 附設高校同窓会東京支部事務局)